

伝習館



東京同窓会会報

第17号 2017.1.1



修学旅行生と卒業生の交流会

題字は母校伝習館に掲出してある創立者、立花鑑賢公の書の扁額の文字を江崎正直氏(高2回)が臨書したもの

講演「中村天風の生き方に学ぶ」
伝習館東京同窓会総会報告
修学旅行生との交流会
「夏目漱石と伝習館の先輩たちと」
特別寄稿「会長14年を振り返って」
青春のパイプライン〔映画篇Ⅲ〕
「わが望郷風物詩」



管理棟から見た体育館

教室棟



管理棟正面玄関



新装なった体育館での入学式

伝習館高校、 大規模改築の推移

改築は平成23年12月から始まり、4期にわたり工事が実施されています。

1期工事

平成23年12月 体育館、東棟（管理棟）の解体

25年3月 管理棟、体育館完成、引越し

2期工事

25年6月 北棟内部改修

25年9月 南棟・西棟解体

26年10月 南棟完成・引越し

3期工事

27年4月 北棟解体

27年9月～28年3月文化財（出土品）

調査。本町武家屋敷遺構ほか、「文武館」

廃棄土坑から墨書の標識板など出土

現在、北西棟建設中（29年9月完成予定）

4期工事

この後、図書館棟改修、家庭科棟・仮校舎解体、テニスコート整備が続く

第17号 2017.1.1

東京同窓会本部より

平成 29 年年頭のあいさつ	会長 白谷 政則	2
伝習館東京同窓会総会を振り返って	高 27 高橋 圭介	3
特別講演「中村天風の生き方に学ぶ」	講師 尾身 幸次	4
平成 28 年度の修学旅行生との交流会について (現役生の感想含む)		6
学年幹事会の活動報告	高 21 白谷 政則	8
東京同窓会総会の開催告知		8
東京同窓会決算収支報告など		9
賛助金ご協力状況報告		10
賛助金通信欄コメント		11

母校だより

「三稜精神」のもと全国にはばたけ		12
進路実績		12
特別寄稿：会長 14 年を振り返って	高 2 江崎 正直	13

先輩・後輩より

夏目漱石と伝習館の先輩たちと	高 2 小野 善睦	15
江崎正直会長時の功績と東京同窓会改革とその進展	高 5 阿津坂林太郎	19
琴奨菊関優勝と柳川観光大使	高 5 下河 秀行	21
裂織 (さきおり) について	高 12 中島 義枝	22
さげもん伝承者・江頭和子さんについて	高 18 津村 哲夫	22
総会で江浦会	高 18 吉田 シヅカ	23
悲劇と喜劇の初舞台	高 24 酒見 和平	23
青春のパイプライン [映画篇Ⅲ] 「ベン・ハー」	高 18 福山 博彰	26
わが望郷風物詩	高 5 阿津坂林太郎	31

学年だより

高 3 回生同期会	高 3 酒井 清行	32
「高志会」	高 4 荒井健之輔	32
「高 6 回だより」	高 6 石橋 修	34
「くっぞこ会」	高 12 野上 一治	34
「高 14 東京同期会」	高 14 中ノ森重義	35
良かジイちゃん・バアちゃん in 広島	高 18 久留間義伸	35
「21 会」	高 21 北島 正常	37

ふるさと瓦版

風浪宮大祭「裸ん行」(大川市)		37
「柳川に新たなヒーロー誕生 坂井聖人」(柳川市)		38

編集後記・原稿募集		39
同窓会会則・幹事名簿		40

伝習館



東京同窓会会報

東京同窓会本部より

平成 29 年 年頭挨拶

伝習館東京同窓会
会長 白谷政則

明けましておめでとうございます。

昨年7月23日東京同窓会総会にて江崎会長の後任として会長の大任を引き受けることとなりました白谷政則です。よろしくお願いたします。東京同窓会には40年程前柳川の実家から「東京で伝習館の同窓会のあるげなばい」と連絡があり25歳の頃初めて出席しましたがその後は出席したりしなかったりでした。18年前江崎様が東京同窓会副会長に就任され『東京同窓会を活性化しましょう、今日ここに出席されている方から学年幹事を選出して下さい』とのお言葉、この時から東京同窓会に関わるようになり初めは学年幹事の中でも若手でしたが今では世間で言う高齢者（初心者マーク）になりました。



ここ十数年の東京同窓会は ①総会の開催 ②会報の発行 ③修学旅行生との交流会を行っております。これらの行事はほぼ順調で今後も継続していきたいと考えておりますが、皆様から次のような意見もあります。

- ① 総会 … 2年に1度でなく毎年開いてほしい、猛暑の7月は避けられないか？
- ② 会報 … 会報の他に東京同窓会のホームページを開きリアルタイムの情報がほしい
- ③ 交流会 … 学生や若い人は転居等で所在が判らなくなってしまうので、フェイスブックやLINE等の情報伝達網が必要

昨年から常任幹事が増員され学年幹事会で提案・討議・検討し決定した事を常任幹事が役割を分担し具現化するという形で運営しており、皆様からのご意見は8月の学年幹事会で検討し①と②については早速動き出しておりますので近々新しい東京同窓会をご披露できるかと思っております。

母校伝習館は1824年創立ですので、もうすぐ200周年を迎えます。東京同窓会も1952年（昭和27）発足で65年になります。ただ古いだけでなく明治維新の頃は伝習館の存続さえ危ぶまれ、戦後は自分達のアイデンティティとして東京同窓会を立ち上げる等、その時その時代の先輩方の努力の積み重ねが今日の伝習館東京同窓会の基となっております。私たちは伝統を甘受するだけでなく、今、自分達で出来ることをやり次の世代に繋げることが大切だと考えております。“継続は力なり”皆様もまずこの会報をじっくり読んで母校愛・郷土愛を深めていただき、総会にも一度は足を運んでみて下さい。皆様のご参加こそが継続の第一歩です、同窓会の楽しさ懐かしさ有り難さが実感できると思っています。

この会報は正月に皆様の手元に届くと思っておりますので読みながら故郷の風景を高校の時を思い出し、少しでも若やいだ気持ちで新しい年をお過ごしください。

伝習館東京同窓会 総会を振り返って

高27 高橋圭介

平成28年7月23日に伝習館東京同窓会総会がホテルグランドパレスにて開催され、250名余りの同窓生の参加がありました。総会に先立つ学年幹事会で同窓会総会実行委員長に任命され、その責務として総会の報告をいたします。当日は柳川から大同窓会幹事学年（高校38回生）の方も上京・参加され、揃いの法被姿で皆様のお出迎えを、そして我々27回生を中心に受付を担当しました。

同窓会の流れとしては、11時から天風会最高顧問・尾身幸次氏による講演会が行われ、12時から総会が開催されました。今回の総会で大きな報告事項となったのが東京同窓会会長の交代ではないでしょうか。14年間会長を務められた江崎会長（高校2回生）から白谷新会長（高校21回生）へとバトンタッチされ、江崎会長は名誉会長に就任していただくことになりました。合わせて事務局活動強化のため常任幹事の増員、紹介が行われました。なお東京同窓会会計報告および賛助金の報告はこの会報に記載されていますのでご確認ください。

総会終了後懇親会へと移るわけですが、今回は懇親会の前に高校49回生の金見美佳さんⅡ写真（生物・金見三好先生のお孫さん）によるソプラノ・ソロミニコンサートが行われ、20分ほどの短い時間ではありましたが、その美声に会場全体が酔いしれました。

懇親会は大先輩・前原弘様（中46、95歳）の乾杯で始まり、あちらこちらのテーブルで昔話に花が咲き、会場入り口では恒例となっている郷土柳川の名産品の売店ありと一気に賑やかになりました。例年と変わったところでは、伝習館中学の先輩であり戦艦大和と運命を共にされた伊藤整一海軍中将の新刊本「悲劇の提督 伊藤整一」の即売会が行われました。

懇親会も半ばを過ぎるころには法被姿の高校38回生による柳川の大同窓会への参加のお願いと、昨年度幹事・高校37回生による大同窓会参加御礼の挨拶がありました。どちらの学年から10名以上の方が参加され、ステージが人で一杯になるほどでした。その大人数を頼みに恒例のおたのしみ抽選会が行われ、中でも御花の宿泊券やグランドパレスのお食事券当選発表には歓声が上がります。すべての抽選が終わったときには各テーブルで2〜3人は何かしらの景品が当たっていたよう



です。

会の終わり頃には校歌、柳河高等女学校から伝習館高校の現・旧校歌そして準校歌を斉唱し、梶島副会長の三本締めでお開きとなりました。会場出口では大同窓会法被姿の38回生を中心に、参加された皆様へお土産を手渡ししながらのお見送りとなりました。

東京同窓会総会・懇親会は盛況に終わりましたが、実行委員会としての振り返りも行っておきます。柳川の大同窓会と異なり卒業後何年目で実行委員を担当というルールはありませんが、東京同窓会が2年に一回の開催であること、学年によって東京方面に出てきている方が少ない場合もありますので、複数の学年で担当してもらおうことになるようです。概ね大同窓会幹事年から十年後くらいでしょうか。

総会準備段階としてのグランドパレスとの交渉や講演会の依頼等は常任幹事を中心に動いていただいていますので、実行委員長長の学年には当日の業務、その中心となるのが受付担当となります。多くの同窓生を混乱無く捌くために5カ所の窓口を設け2名ずつ、10名での担当というのが基本となっています。今回は27回生と28回生で担当して欲しいとのことと同期メンバーに声を掛

けていたのですが、残念ながら10名に足りず、他学年からのヘルプをいただきました。不慣れな点が有ったと思いますが、さほど混乱も無くやり終えたのだと思います。

もう1点反省すべきこととしては、現役大学生との連絡がうまくいかず、出席者が無かったことです。今まで連絡担当だった方の異動等でうまく連絡が取れなかったのですが、すでに新たな対応がとられて次回の総会では大学生の参加・紹介が有るものと思います。

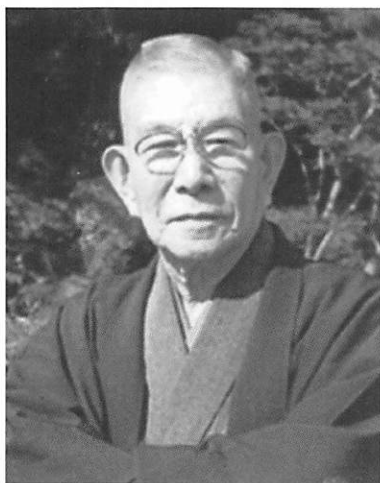
平成30年度の同窓会実行委員長が何回生になるのか分りませんが、次からは27回生もサポートに回ることにあります。同窓会という活動の流れの中で、言わばバトンパスのように先輩から受取りそれを後輩へ引き継ぐ、その一端を担えればと思います。



「中村天風の生き方 に学ぶ」

公益財団法人天風会最高顧問

元財務大臣・尾身幸次氏



中村天風

私の師である中村天風（中村三郎、1876～1968年）の家は立花家の血筋を引く柳河藩士。中村家の養子となった天風の父・祐興は華族で、大藏省の初代抄紙局長を務めました。今回は柳河立花藩の藩校伝習館の東京同窓会という盛大な会に呼んでいただき感謝いたしますと同時に、天風先生の郷・柳川は自分の故郷のような気がしています。

私は一橋大学を出て通産省に入省。高級官僚となり、結婚もして順調な矢先、20代後半に突然、結核にかかり休職。死ぬかもしれないと奈落の底に突き落とされた。出世など夢のまた夢。通産省の席に戻れないかもしれないと出世も諦めかけた。せめて病気が治って、山を歩き、

山奥の温泉に浸かった後、うまいビール一杯心おきなく飲めればいいという心境でした。1962年（昭和37年）、通っていた漢方院・鍼灸の先生、橋本まさえさんから「神経質なあなたにふさわしい方がいる」と紹介されたのが中村天風先生に師事することになったきっかけです。天風先生は新聞や雑誌に一切広告を出さず、師事した人が喜びのおすそ分けにと口コミで紹介された人ばかりで、私も当時、護国寺の月光殿で開いておられた講習会や修練会に通うようになりました。29歳の時です。

死の淵から帰還、求道者となる

ここで中村天風先生がどういう方なのかについてお話しします。本人から直接聞いた話です。修猷館中学のとき熊本で柔道の試合があり、済々黌中学と対戦。負けた済々黌の生徒が遺恨をもち、闘闘ちした。そこで天風青年は一軒一軒訪ねて復讐。一対一でやろうと訪ねた済々黌主将ともみあっているうち相手が持ち出した出刃包丁がはずみで当人にささり、死なせてしまった。自己防衛で無罪になったが学校は退学となった。

その後、頭山満の玄洋社に預けられる。頭山は日本においておけばろくな人間にはならないとして、人を殺しても罪にならない仕事として回したのが日清戦争時の軍事諜報員・石部金吉のお供として大陸を見聞すること。帰国後は陸軍の諜報員（スパイ）として養成され、日露戦争が迫った満蒙に再度潜入して目覚ましい活躍を見せる。113人いた仲間の

ほとんどが敵に殺され、からくも生還した9人の1人となった。日本に帰還した後、奔馬性の結核に倒れた。昔、豪胆で強かった自分が病になったら、こうも気の弱い人間になってしまった。自分自身を許せない。何とか心の強い人間になりたいと治療も含めいろいろ当たったが誰も教えてくれない。外国で治そうと決心し、親交のあった孫文の親類になりすまし中国経由で米国へ密航、ニューヨークのコロンビア大に入学が叶う。基礎医学の免状も取得したが結核はそのまま。その後ロンドンでリンドラー博士に面会、パリでは大女優、サラ・ベルナール邸に寄宿、ドイツではドリリュース博士を訪ねるなど1年半ほど外遊したが、求める答えは得られない。どうせ死ぬから桜、富士山をみて死のうと1911年帰途につきマルセイユを出港。スエズでイタリ

ア砲艦座礁のため復旧待ちの間に、カイロで咯血。アレキサンドリアでインドのヨガの聖人、カリヤツパ師と出会い「あなたは自分で死ぬ気になっているが、まだ死ぬ運命にはない。まだやるべきことがある。私についてきなさい」といわれ

師に従い、ヨットでスエズを渡り、インドのヒマラヤ高峰、カンチエンジュンガ麓に寄りカリヤツパ師のもとで3年近くインド・ヨガ哲学、実技極意を悟り、心と体を丈夫にする術であるクンバカの秘法を悟る。魚や肉は口にせず、野菜や果物だけの食生活をして結核は完全に治ってしまった。

数年ぶりに日本に帰り日本精糖の前身など、いくつかの会社の社長をやって成

功。しかし、突然ある時思い立ち、実業界から身を引き、心身統一法を縁のある人に広めようと、1919年（大正8年）、午前は上野の西郷隆盛像前、午後は芝の大隈銅像前で辻説法。のちに時の総理・原敬の勧めで天風会の前身・統一哲医学会を創設し、講演を行い、政財界から文化人、軍人など戦前・戦後を通じて、多彩な人たちの精神的支柱となりました。天風先生が昭和43年、天寿を全うされたのち、私が後年8年間も理事長を務めるようになり、心身統一法を皆さんに伝えることになった。以上が先生のパーソナルヒストリーです。

天風哲学の宇宙観・生命観・人生観

先生は私に「人生はたった一度。1ページだ。2ページはない。人間は必ず死ぬ。死に恐怖するのではなく現在生きていることに感謝して、生きて、生きて、生き抜け」「物事には原因があり、結果がある。病で苦しんでいるのは結果で、それは本人がつくったもの。どこかで生き方を間違えたから。これは宇宙の真理で、例外はない」と。私は何で自分が病に苦しんでいるのか、聞いているうちにわかった。消極的な心、怒り、うらみ、ねたみ、そねみは運命が逆風になるだけ。人生を生きていく心の態度（原因）を直さないと結果は良くならない。そうしないと宇宙の統一と建設のエネルギーが自分の生命の中に入ってこない。いつも明朗闊達で、「晴れてよし 曇りてもよし 富士の山」の心境で生きていけば病も克服し、運命も切り開ける。勇気は

勝利をもたらし、恐怖は常に敗北を生む。これが原因・結果の法則です。原因と結果は一对一の対応をしている。宇宙の真理は全く公平、だれも例外はない。生まれたからには元気で長生きしないといけない。だが、毎日が病気がちでは困る。長く、強く、広く、深く、有意義な人生を送るためには人間として正しい生き方をしなきゃいけない。「みな生命の中に6つの強い力のちの力」を持って

いる。精神的、肉体的能力を強くするための力は体力、胆力、断行力、判断力、精力、能力。この6つの力の一つが欠けてもうまくいかない。6つの力について教えるから明日から自分のもとにいらっしやい」と私は先生からいわれ、師事することになった。

心身統一法とは



この6つの力を引き出すのが心身統一法です。自分を強くするには

は本来もっている潜在的な力（リザーブパワー）を顕在化する。知っているだけではだめで、実行して健康も運命も獲得する。私は7年間師事をして自分の人生を切り開くことができた。この時期に国も必要性を認めて公益財団法人として天風会を認可した。天風会では心身統一法のシステムを教えますが、実行するかどうかは本人次第です。宗教という自力か、他力かという神仏に拜む他力ではなく、自ら実践する自力です。ハウ・トゥ・コントロール・マインドを心身統一法では教える。方法論から実践すれば効果があります。

人間の吸酸除炭、栄養補給、老廃物の排泄は生きていくうえの肉体、生命の基

本。これは五臓六腑でやっていることだが自動的稼働性、つまり意思だけでは動かない。神経系統と脳髓腑により動いています。神経系統の機能の中には自然治癒力（ナチュラル・ヒーリング・パワー）が入っていて、思考作用により神経系統が正しく動くかどうか決まる。神経系統が操り人形のようにコントロールする。脳髓腑からの思考作用がプラス思考でないとい病気になる。自然治癒力を100%発揮するにはいかにして心をコントロールするかが大事なのです。

「人間は万物の霊長、生まれながらにして使命がある。人は何をするために生まれてきたか知っているか」とカリヤツパ師は天風に尋ねる。考えてみよといわれて天風先生は滝つぼのほとりで考えに考え抜いた。そして天風青年の魂の夜明けがくる。「宇宙の創り主の心に応じて、この世の進化、向上を現実化するために生まれたのではないか」と天風は答える。「そうだ、それが正しい」と師がうなずく。だから人は世のために働く、これが哲学の根幹です。この目的を達成するために生まれてきたのだから、ハウ・トゥ・コントロール・マインドにより実践する。

人間生きているということはどういうことか。目に見えない心と見える体はくっついていて、離れたら分解する。肉体は人間が生きていくための道具で、天から借りたもの。肉体を支配する心が上流、肉体は下流であると考え。脳髓、神経系統のところでも話しましたが上流をちゃんとやらないと自然治癒力が働か

ず病気になる。だから心の態度を積極的、健康的にし、目的を達成するために生きていく。「この世の進化、向上を現実化する」のです。天風会では身体を動かすことより、いかに心の状態をコントロールするかに重きをおいています。これをやればいいと天風先生が考案したシステムを教えるのが天風会としての役目です。

その方法を語れば、まる1日かかるが皆さんには本日、急所だけ公開します。これをもって帰って実践すると役立つ。

それはどんな時も消極的マイナスになる言葉は使わないこと。運命が逆風で、明日不渡りになるといふ時でも弱気を口にしない。プラス思考にならないと心のいい状態は維持できない。悲しい、辛い、悔しい、怖い、嫌いといった愚痴めいた言葉を口にしないのが天風会の基本ルール。元気がないときも元気が聞かれれば「はい」と答える。熱があっても「気分爽快。元気です」と。これ一つ変えただけで人生が変わる。今まで嫌っていた人でも好きになることがある。苦が苦でなくなる。カラ元気を出しているうちに本当に元気になる。初めての人でもこれをやれば嫌なことも苦にならない。いつも朗らかにしていれば正しい心が持てる。1回実行したら元気に変わるし、寝つきだつてよくなる。これが宇宙の真理。3分でできます。

療養の間、天風先生のもとの、いわれたことは全部やった。そうしたら1年半はかかるといわれた結核が8カ月ほどで治り、通産省に復帰できた。虎ノ門病院

平成28年度 修学旅行生と卒業生との交流会について

の先生に「治ってはいるがあなたの体はガラスにひびが入っている状態だから3カ月に1回は診せにきなさい」といわれてから50年、1回も検査していない。天風会の教えは今も命かけてやっています。83歳の私が世界を飛びまわり、世界の科学技術の発展を実現すべく働けるのも天風先生と出会い、直接教えていただいたから。貧困家庭に生まれながら政治家になれたのも先生の教え、信念の力のままにやった結果です。

今日は天風先生の一番の弟子と自負する私を講師に呼んでいただいていたので、興味を持たれた方は著作もありますので、読んでいただければと思います。中村天風は人類最大の哲学者だと思いません。今回の講演が生涯の恩師・天風先生とご縁のある皆さまの人生に寄与、発展することを祈念して、私の話を終わります。

(講演文責・北島)

尾身幸次プロフィール

1932年、群馬県生まれ。一橋大学卒業後、通産省入省。1983年、衆議院議員当選。1997年、経済企画庁長官として初入閣。2001年には沖縄および北方対策担当・科学技術政策担当大臣として、世界最高水準を目指す沖縄科学技術大学院大学の設立を提唱し、実現。またダボス会議の科学技術版「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」(STSフォーラム)を2004年に創設。現在、理事長を務める。2006年には財務大臣に就任。

29歳の時、中村天風に師事し「心身統一法」により結核を克服、人生を切り開く。著書に「天風哲学実践記」(PHP研究所)、「成功への実践」(日本経営合理化協会)がある。

恒例となった伝習館高校の修学旅行生(2年生)と卒業生(OB、OG)の平成28年度の交流会が、9月12日(月)19時から、宿泊先の早稲田リーガロイヤルホテル東京で開催されました。出席者は修学旅行生が約200人と引率の先生方、卒業生は36人(うち大学生12人)。今回は5クラスを7、8人の様々な年代の卒業生が担当し、高校時代の勉強・経験、大学・就職、東京での生活などについて生徒たちの質問に答える形で行われました。その時の高校生の感想が寄せられているので紹介します。

修学旅行生より

〈印象に残った言葉・話〉

- ・ すべてのことについて楽しむとすることが大切。
- ・ 長い人生のうち高校生というのは、たった3年間であり、今やれることをやり、いろいろな体験をすることが大切。
- ・ 苦手な科目があってもいい、「自分にはこれだ!」という何かのスペシャリストになれ!
- ・ 受験勉強は大変だが、諦めず努力することで今後の人生につながる。
- ・ どんな理由でも自分が本当に行きたいと思う大学にいったらよい。

・ 朝、水泳部プールの飛び込み台に立ち、今日もヤルゾと自分を奮立たせた酒井先輩の話。

・ 部活を辞めずに最後まで続けることの大切さについての話。

・ 理系、文系にかかわらず英語を使う場面は多いので、しっかり勉強しておくべきということ。

〈生徒たちの感想〉

- ・ 自分の将来の悩みを解消してくれるような先輩方のお話はためになるものばかりだった。
- ・ 進路の決め方や人間関係の話を聞いてとてもよかった。
- ・ 自分たちと同じ文系の先輩方の話を聞いて参考になることが多々あった。
- ・ 一つひとつの質問に丁寧に答えてくださって、実体験に基づくお話はどんな情報より役に立った。
- ・ 将来のことに対する不安や今の友人との人間関係をどう対処していくかを学ぶことができた。
- ・ 皆さん、はきはきと話されており、自分も自分の考えを明確に伝えられるようになっていたいと思った。
- ・ 先輩方の話をうかがって、もっと自分は努力をしないとイケないと改めて感じた。
- ・ 自分の将来の夢である広告業界の先輩もいらっしやって、伝習館の卒業生で

そんな方もいるんだ!と親近感がわき、とても良い経験になりました。

・ 自分も東京への進学を考えているので、実際に東京に進学、就職した方の話はとても参考になりました。

・ 皆さん、輝いていて東京に出て働くのもいいな、と思いました。

・ 伝習館の先輩方だからこそ、聞ける話もあって、とても有意義でした。特に年齢が近い大学生の方々からは高校生の時の話を聞いて参考になることばかりでした。

- ・ 高校生のときしかできない目の前のことをひとつずつ全力でやっていこうと思った。
- ・ 今の自分ときちんと向き合い、自分は今何をやらなくてはいけないのか、何をやりたいのか、はつきりしなければいけないと思いました。
- ・ 実際に東京に行ったからこそ分かる良い点・悪い点がしっかり聞けたので、今後の進路選択の参考にしたい。
- ・ 高校2年生の今だからこそできることが分かったので、今できることを手を抜かずにやりたい。
- ・ 自分の将来についてとても考えさせられた。自分の進路について、いろいろな方向性があると思えた。
- ・ 自分が何のために勉強しているのか考えることができた。先輩方に負けないくらいたくましい大人になりたい。
- ・ 「今やりたいことは今すべき」と言われたので、毎日「この勉強は明日しよう」ではなく「今しよう!」とすぐ行動しよう!と決めました。

・将来どう進んでいけばよいのかあやふやだったのですが、少しずつ道筋が見えてきました!! ありがとうございます

・伝習館の歴史を感じることができたことが一番よかったです。その中で伝習生としての誇り、在り方を学ぶことができました。

・都会のほうがメリットが多いイメージだったが、田舎のほうがご飯がおいしいし、いいこともたくさんあることに気付いた。

・貴重なお話をしていただきありがとうございます。将来東京に行きたいと思っ

・部活を引退した後、成績が伸びるか伸びないかはその人しだい、という話を聞いて頑張ろうと思った。

・有名大学に行くことがいいことではなく、自分の行きたい大学を目標にして頑張ることが大切だと気付いた。

・福岡から東京に出てくる際の家族と離れる心構えについて知ることができた。

・中村繁宏先生の意外な一面を知ることができた。

・中村繁宏先生の授業に一生懸命ついていけば、必ず成績はアップするという話を聞いて頑張ろうと思った。

・自分の将来したいことにこだわって、全国の大学を視野にいれて進路を考えようと思った。

・人生経験の長い先輩方から、自分の経

験談を交えてためになる話をしていただき本当にありがたかった。いただいたアドバイスを、これからの学校生活に生かしていかなければならないと感じた。

・夢をあきらめずに、思い続けることによつて努力が実ることを、身をもって示していただいた。何事にも積極的に挑戦し、あきらめないことを自分に課して頑張りたい。

・人生経験の長い先輩方から、自分の経験談を交えてためになる話をしていただき本当にありがたかった。いただいたアドバイスを、これからの学校生活に生かしていかなければならないと感じた。

・今まで九州を離れることに抵抗感を持っていたが東京で活躍されている先輩方の姿を見て、どんな場所でも自分のやるべきことに全力を注ぐことが最も大切なのだと気が付いた。これからは

場所や時間を選ばずにやっていききたい。

・部活と勉強の両立に悩んでいたが、解決するためのヒントをいただいた気がしている。悩んだ時に、それに立ち向かうことが大切で、部活動で得られた経験は社会人となったときに必ず生かされると聞いて自信をもつことができた。

交流会・卒業生の感想
生徒側からの質問が準備され、前回と比べると生徒たちの積極性が目立った。これは質問があまり出ず、盛り上がりにかけた前回の反省から、事前に生徒に質問リストを用意してもらったことが奏功したようである。

また数年前の卒業生が対話をリードしたことも生徒側の積極性につながった。最近の卒業生には今の生徒たちも教わっている共通の先生がいて、話題にする

うち解けていた。生徒たちも、元氣よく発言し、笑いがこぼれ、緊張もほぐれて、リラックスした様子だった。

伝習館生としての誇り、精神注入もいのだが、実情は少子化時代、ゆとり教育世代の高校生。精神力とは縁遠くなくても不思議はない。1学年は昨年より1クラス減り5クラス、生徒数は40〜50年前の半数以下となり、女子比率が高い。

そうした中で、学力レベルを上げ、部活も続けているというのはOBとして頼もしくさえ感じている。高校時代は悩み、迷うもの。熟慮すれば進路の答えもでてくる。生徒たちの思いを受け止めながら

自分に負けず、頑張れ」と声援を送りたくなかった。

生徒から「東京に出て頑張っている先輩たちの姿を見て、励みになった」との感想も寄せられた。「志があれば東京にトライせんね。何とかやっていけるよ」と頼りないが贈る言葉としたい。(北)



交流会OB参加者（敬称略）

51	50	40	37	35	27	23		21	20	16	14	13	3	2	55
本村泰輝	北原美保	石橋崇正	桑山薫	池上英次	高橋圭介	樋口貴美子	西原正道	北島正常	白谷政則	高巢和登	椋島正司	高木節子	原田万紗子	酒井清行	江崎和夫
	敬称略	(※大学生・院生)	敬称略	67	66	64	64	64	63	62	61	60	59	58	56
			※村上優太	※高井良健史	※池田真裕	※水落祥太	※上野貴裕	※上野貴裕	※大坪佳右	※佐藤公治	※野中優	松延瞬	藤木将	大津花絵	藤木将

学年幹事会の活動報告

高21 白谷政則

前年に引き続き東京同窓会の一年を報告します。前年と同じ内容の場合簡素に説明します。(H27.10～H28.10)

〈伝習館関係〉

H27.10/3 編集委員会

正月発行に合わせ早めに原稿を依頼し、32ページの原稿が集まる。残りの執筆者を割り振り、後はメールのやり取り

をして11月上旬アサヒメディアで最終打ち合わせ。

H27.10/11 伝習館大同窓会（柳川）

65回伝習館同窓会 東京から江崎会長はじめ15名参加、懇親会の途中全員舞台上がり東京同窓会の活動をPR。

H27.11/7 編集委員会

アサヒメディアで最終打ち合わせ。松の内配達のため、作業を早める。

H28.1/23 新年会

学年幹事会が駒込会場の都合（耐震工事）で開けないので、有志20名程集まり今年の総会の準備について話し合う。

H28.3/12 大学生の卒業祝い

前年同様、大学生3名・有志18名。

H28.4/16 学年幹事会

リニューアルされた駒込文化創造館で久しぶりに開催。

・会報16号について感想

・総会の実行委員選出

・江崎会長退任の意思表明

・後任の会長候補推薦

・賛助金の入金状況

H28.5/14 実行委員会

総会の役割を学年別に振り分け責任者を決め、各学年応援の増員をお願いする。

・ホテルとの交渉

・物産品の手配等準備を進める

H28.6/26 学年幹事会

・後任会長候補選出

・常任幹事の増員承認

・総会の準備進捗状況

・現時点での総会出席者確認と最終予測

・賛助金の入金状況

H28.7/2 実行委員会

7/17 出欠入力

7/19 名札作成

7/22 席の配置等

H28.7/23 東京同窓会総会開催

H28.8/27 学年幹事会

・総会報告

・総会会計報告

・交流会の受け入れ準備状況

・会報17号について

・大同窓会（柳川）案内

H28.9/12 修学旅行生との交流会

（別面に掲載）

H28.10/8 伝習館大同窓会（柳川）

H28.11/13 学年幹事会（開催予定）

〈眞人会関係〉

東京福岡眞人会 同窓会協力委員会

前年より3校増え18校で年6回定例会議を開催。

H27.11/28 同窓会役員交流会

前年も報告しましたが福山博彰氏（高18）が『修学旅行生との交流会』について発表。

影響を受けた糸島高校と三池高校が今年から修学旅行生との交流会をやるそう

で定例会では準備の仕方や大学生は何人

位集めるのか等何度も尋ねられます。

H28.2/6 就活を応援する会

前年と同様、田中美咲さん（青山学院大3年）が参加。

※予告

H29.5/25（木）東京福岡眞人会総会

今年筑後地区が当番幹事で伝習館東京同窓会へも応援、協力が要請されていますのでご参加お願いします。眞人会に入会してなくても参加できます。毎年

伝習館東京同窓会親睦会予告

平成29（2017）年 5月か6月の日曜日 12:00～17:00 内の3時間
 ホテルグランドパレス 東京都千代田区飯田橋1-1-1 03-3264-1111
 会費 男女共 7,000円
 : 5,000円 高6回以前卒業（80歳以上） 高57回以降卒業（30歳未満）
 学生・大学院生 無料
 賛助金未納の方は別途2,000円の協賛をお願い致します（学生・大学院生は除く）

総会ではありません。ホテルの予約は3ヶ月前からなので日時も決まっています。よって、講演やアトラクションの予定もありませんが面白い企画は考えています。日時が決まりましたら2月～3月頃 学年幹事の方から皆さんへ連絡致します。

400～500名集まります。
 詳しくは4月以降に白谷政則までお問い合わせください。

携帯 090-9835-1207

srtmnsr@softbank.jp

E-mail: mshira@aioros.ocn.ne.jp

平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日

単位：円

平成 28 年度伝習館東京同窓会決算報告書

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
賛助金（郵便局231件）	1,187,000	会報制作費一式（含発送費用）	954,558
賛助金（銀行5件）	24,000	資料、メール便発送費	24,772
普通預金利息	7	会議室使用料（駒込地域創造館）5回	5,200
東京同窓会総会剰余金	35,504	会議（学年幹事会）雑費	22,401
編集委員会預け金戻し	20,000	会議資料コピー代	27,346
		事務用品	15,502
		修学旅行交流会参加大学生交通費	12,000
		修学旅行交流会参加者懇親会補助	36,000
		福岡県人会就活を応援する会他交流会費4回	26,000
		伝習館大同窓会総会広告費	40,000
		伝習館東京同窓会総会案内他準備費用	319,494
		編集委員会預け金	15,000
		郵便振込手数料	23,190
		印字サービス手数料	2,102
当期収入	1,266,511	当期支出	1,523,565
前期繰越金	3,310,964	次期繰越金	3,053,910
計	4,577,475	計	4,577,475

平成 28 年 7 月 23 日 於：ホテルグランドパレス

単位：円

平成 28 年度伝習館東京同窓会総会決算報告書

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
会費		宴会費（ホテルグランドパレス）	2,012,487
男性 165名 @10,000円	1,650,000	講演謝礼（尾身幸次様）	216,000
女性 92名 @9,000円	828,000	ソプラノ歌手、ピアニスト謝礼	20,000
ご来賓 6名 ご祝儀	60,000	宴会用飲物、地元食材等	95,893
小計	2,538,000	参加者土産、来賓土産、売店用商品等	277,394
売店売上	122,000	振込手数料	2,722
		小計	2,624,496
		賛助金に入金	35,504
収入合計	2,660,000	計	2,660,000

総会当日に、28名もの方から賛助金、193,000円をご協力頂きました。有難うございました。

東京同窓会総会の提供

景品・提供者

【御花】一泊二食付ペア宿泊券 3 立花寛茂同窓会会長様(高10)
 ホテルグランドパレスペアお食事券 2 ホテルグランドパレス様
 ギリシャ・クレタ島産ワイン、
 オリーブオイル 18 岡田哲也様(高6)

写真集「四季の彩り」 5 高木節子様(高14)
 ハーゲンダッツ・アイスクリーム(5ヶ入) 10 西原正道様(高21)
 伝習館(三稜)マーク入り饅頭(2ヶ入) 300 千鳥屋総本家様
 みかん絞りジュース(6本入) 12 御花様

【賛助金ご協力状況報告】

(平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日)

年初早く発刊したため 11 月末日が切と変更しました。(右から)

卒回	氏名
高 10	江 口 武
高 10	高 島 早 苗
高 10	大 村 平 人
高 11	秋 永 栄 子
高 11	城 島 孝 雄
高 11	與 田 広 巳
高 11	久 賀 朝 文
高 11	龍 勝
高 11	岡 辰 彦
高 11	石 橋 秀 男
高 11	鶴 精 三
高 11	木 下 淑 子
高 11	佐 薙 輝 代 子
高 11	田 島 龍 子
高 12	深 谷 悦 子
高 12	馬 場 敦 子
高 12	甲 木 宏 明
高 13	田 中 利 道
高 13	尾 崎 カツエ
高 13	池 末 洋
高 13	原 伸
高 13	西 山 照 子
高 13	成 清 謙 爾
高 13	甲 木 久 美
高 14	大 村 陽 子
高 14	宮 原 修
高 14	椛 島 廣 昭
高 14	甲 斐 昌 彦
高 14	今 泉 京 子
高 15	後 藤 民 子
高 15	岩 崎 雅 子
高 15	乘 富 眞 則
高 16	黒 田 タエ 子
高 16	高 椋 正 民
高 17	中 島 功
高 17	龍 敏 彦
高 17	北 島 文 之
高 18	吉 田 シツカ
高 18	細 川 正 子
高 18	十 時 理 展
高 18	古 賀 行 夫
高 18	三 沢 百 合 子
高 20	近 藤 敬 介
高 20	諸 藤 由 美 子
高 20	田 淵 正
高 20	井 口 ちづ 子
高 21	千代島 道 生
高 21	柿 野 貴 美 子
高 21	佐 藤 邦 恵 子
高 22	田 島 栄 子
高 24	田 中 知 子
高 24	後 藤 一 誠
高 26	野 口 佳 延
高 32	咲 村 あかね
協賛 0.5 口	
中 50	吉 開 嘉 隆
高 10	古 賀 雄 次 郎
高 10	大 島 喜 代 子
高 23	下 田 真 知 子

(1 口 2,000 円)

卒回	氏名
高 3	木 村 澄 子
高 3	西 山 彰
高 5	家 入 智 恵 子
高 5	鈴 木 妙 子
高 7	大 藪 成 人
高 8	池 田 孝 人
高 8	大 村 泰 生
高 8	永 倉 正 彦
高 10	川 口 圭 之
高 11	近 藤 素 子
高 11	永 尾 弘 行
高 12	横 山 正 和
高 12	尾 田 常 昭
高 14	鷹 尾 富 士 雄
高 14	松 岡 健 次 郎
高 16	水 澤 昭 子
高 17	松 藤 信 弘
高 17	浦 川 邦 憲
高 17	北 野 すえ 子
高 17	山 本 祥 子
高 19	正 岡 喜 則
高 23	樋 口 貴 美 子
協賛 1 口	
中 49	松 尾 淳
中 50	三 山 心 栄
中 55	馬 場 淳 三 郎
中 56	高 田 信 義
高女 42	富 重 信 子
高 2	増 田 則 久
高 2	田 中 豊 子
高 2	池 田 國 彦
高 2	北 原 大 薫
高 3	村 井 タカ 子
高 3	田 島 順 次
高 3	臼 井 ヒロエ
高 4	椛 島 啓 之
高 4	高 須 信 治
高 4	緒 方 常 子
高 4	井 上 真 砂
高 4	宮 川 政 實
高 5	原 タカ 子
高 5	野 口 幹 彦
高 5	岸 洋 子
高 5	武 田 八 重 子
高 6	石 橋 修
高 6	池 田 勝 嗣
高 6	中 村 充
高 6	本 間 洋 子
高 6	高 橋 絹 子
高 6	森 清 旨
高 6	中 尾 久 代 一
高 7	松 藤 賢 一
高 8	岩 井 治 子
高 8	中 村 清 美
高 8	甲 斐 田 義 春
高 8	高 石 順 子
高 8	後 藤 亨
高 8	与 田 芳 樹
高 9	松 永 和 壽
高 9	木 村 博 子
高 9	岩 丸 純 芳
高 9	原 田 光 紀

卒回	氏名
高 8	豊 島 黎 子
高 13	尾 田 義 昭
高 18	平 野 勇
高 21	北 島 正 常
高 29	古 賀 宣 明
高 32	石 田 秀 樹
高 34	柳 内 真 理 子
協賛 2.5 口	
女 41	森 脇 ツル 子
中 55	江 崎 和 夫
中 56	成 清 良 孝
高 2	石 崎 知 見
高 2	水 上 富 美 子
高 3	酒 井 清 行
高 4	荒 井 健 之 輔
高 5	安 藤 祥 介
高 5	江 口 政 司
高 5	中 村 義 行
高 6	西 田 房 代
高 7	福 山 さくら
高 7	原 田 彰
高 7	田 中 健 次
高 8	入 部 一 郎
高 8	與 田 武 久
高 8	川 口 融
高 10	松 藤 俊 正
高 10	永 倉 素 子
高 11	樋 口 守
高 12	小 野 アケミ
高 13	斎 田 宗 生
高 14	高 木 節 子
高 14	壇 雅 昭
高 16	松 延 日 出 美
高 18	十 時 理 展
高 18	緒 方 敬 四 郎
高 18	大 津 博
高 18	川 口 秀 喜
高 18	加 納 和 則
高 20	石 橋 岩 美
高 20	椛 島 豊 子
高 20	相 見 り 子
高 20	高 巢 和 登
高 21	中 島 和 彦
高 22	竜 美 代 子
高 24	山 田 直 美
高 27	中 村 智 恵 子
高 27	高 橋 圭 介
高 28	吉 開 孝 人
高 31	平 田 洋 次
高 35	池 上 英 次
協賛 2 口	
高 1	高 石 満 之
高 5	高 松 永 悦
高 10	東 辰 子
高 11	原 尻 満 子
高 13	坂 田 幸 子
高 14	平 野 晴 子
高 27	松 藤 峯 成
高 34	真 鍋 和 裕
協賛 1.5 口	
中 40	吉 開 正 隆
中 55	武 藤 徳 一

卒回	氏名
協賛 25 口	
高 2	江 崎 正 直
協賛 15 口	
高 4	匿 名 希 望
高 10	板 橋 加 代 子
高 16	渡 慶 次 守
協賛 11 口	
高 21	石 川 俊
協賛 10 口	
中 48	宮 本 弘 道
21	甲 木 清
協賛 7.5 口	
高 18	福 山 博 彰
協賛 5 口	
中 56	永 井 俊 一
高 1	松 藤 惟
高 2	松 藤 哲 夫
高 2	河 野 健 一 郎
高 2	小 野 善 睦
高 4	新 谷 弘 実
高 4	渡 邊 喜 亮
高 5	岸 栄 洋
高 5	下 河 秀 行
高 5	津 留 清 水
高 5	沖 美 津 正
高 6	戸 上 軍 治
高 6	川 口 鍵 寿 郎
高 6	木 村 峯 子
高 7	中 村 奨 佑
高 7	古 賀 日 出 夫
高 9	廣 松 洋 一
高 10	内 山 秀 生
高 10	原 田 智 昭
高 10	立 花 寛 茂
高 10	古 賀 明 美
高 12	石 塚 武 美
高 15	大 塚 隆 秀
高 16	椛 島 正 司
高 16	三 小 田 雅 美
高 18	満 生 英 二
高 18	川 口 苦 楽
高 18	森 田 啓 吾
高 19	田 中 茂 利
高 19	野 口 昇
高 19	福 山 啓 治
高 20	岡 賢 二
高 20	安 永 保 則
高 21	白 谷 政 道
高 21	西 原 正 道
高 21	師 村 尚 子
高 23	高 田 健 二
高 24	高 酒 見 和 平
高 32	加 藤 寛 樹
高 32	濱 武 久 司
高 32	森 昌 伸
高 32	柴 田 雅 秀
協賛 4 口	
中 54	原 朗
高 13	原 田 万 紗 子
協賛 3 口	
高 3	井 口 茂 樹
高 7	龍 弘 道

伝習館東京同窓会 賛助金通信欄コメント

高6 戸上軍治

第16号会報紙元旦に頂き気分も新たに拝読することができありがとうございます。

高3 村井タカ子

今年も有難うございます。ふる里をなつかしく読ませたいと思っています。

高2 松尾哲夫

昨年11月で妻も傘寿の坂を越えることができました。

高23 下田真知子

いつもありがとうございます。今年もよろしくお願います。

高1 松藤惟

S19年入学、23年4年修3中退卒業せず。

高18 十時理展

西鉄柳川駅が新しくなりました。池末さんの絵もバラシイ。会報楽しみです。

高18 福山博彰

もっと多くの人がいんなことについて投稿してくれるといいですね。

高18 吉田シヅカ

県立高校を目指している中三の孫は一次Ⅱ内申点、二次Ⅱペーパーテスト、三次Ⅱ面接の通過が必要らしい。私達が受検（今はこの文字を使う）したときはどんなだったかしら？

中48 宮本弘道

92才。健康には恵まれています。会社への出勤4/週、ゴルフ1/週、福岡市、みやま市、柳川市、菊池市 2/年出張しています。

高8 入部一郎

故郷の情報待ち遠しいです。又道内在住の同窓生の方、お便りをいただけましたら！

高5 松永悦子

昨年は失念いたしました。毎年一口ずつはさせて頂くつもりです。

高13 尾崎カヅエ

いつもお世話になり有難うございます。

高18 細川正子

いつも会報送っていただきありがとうございます。これからもよろしくお願います。

高2 江崎正直

今年の会報は初めて正月松の内に配布されて大変嬉しく思います。

高27 中村智恵子

いつも会報を届けていただき有難うございます。編集委員、事務局の皆様へ深く感謝いたしております。

高4 荒井健之輔

同窓会会報拝受。楽しくなつかしく読ませていただきました。編集「苦勞様です。「帰去来」の詩のように、柳川への思いが奏えることはありません。

中40 吉開正隆

代理・長男 義隆。港区麻布十番から世田谷区深沢に住所を変更。本人は故人になりましたが、伝習館会報を楽しみにしており、仏前に備えたいので16号以降をお送りください。

高19 田中茂利

振込失念していました。遅くなってすみません。同窓会会報有難うございました。

高21 佐藤邦恵

姉に誘われて初めて入会させて頂きます。

高9 木村博子

東京同窓会会報16号有難うございました。賛助金をお送りいたします。

高5 下河秀行

8月に伝習館高校との関係が深い出来事がありました。娘でフルート奏者の岩下智子（武蔵野音大講師）が、昨年の7月アクロス福岡で、久保政則館長の仲介で伝習館高校プラスバンド部員を対象に、グループレッスンを致しました。部員に大変喜んでいただいたそうです。

高2 小野善睦

特別寄稿はヒットでしたね！

高14 鷹尾富士雄

菊パウワ めざせ横綱 春うらら

高21 千代島道生

2月に、伝習館を訪問しました。新伝習館を実感しました。又、西鉄柳川駅も新しくなり驚きでした。

高22 田島栄子

柳川出身の琴奨菊初優勝で大感激。相撲好きだった亡母に見せたかったです。

高6 川口鍵寿郎

東京同窓会会報、楽しくそして感動しながら拝読しています。会の隆盛を御祈念します。

高6 森清旨

江崎正直会長初め、東京同窓会役員の方々には、ご多用の中、同窓会活動にご苦勞くださいましてただただ感謝するのみです。どうかこれからもよろしくお願ひ申し上げます。

高5 鈴木妙子

16号の会報ありがとうございます。会報が届くといいとき柳川へもどった気がします。これからもよろしくお願ひします。

中50 吉開嘉隆

前略 中40卒の吉開正隆の遺族です。仏前にさげたいので東京同窓会会報第16号及びバックナンバー第4号をお送り下さい。1月22日3000円送金させていただきましたが、不足だと困りますので千円送料として同封させていただきます。

高7 古賀日出夫

毎年会報を有難うございます。蒲池の方々の情報を楽しみにしています。

高10 大村平人

元旦の配達で思わずお年玉が舞い込んできた感じ。今年が良いことが起こりそうな予感がしていたところ、早速に琴奨菊が優勝しました。

高35 池上英次

東京同窓会いつも楽しみにしています。これからも微力ながら協力させて頂きたいと思ひます。よろしくお願ひします。

高女42 富重信子

有料老人ホームに入居しました。今回で寄付は最後にさせて頂きます。

高5 中村義行

東京同窓会の益々のご繁栄と会員の皆様のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。

高4 渡邊善亮

白谷新会長に期待。衆知を集めて新機軸を!! また、形骸化した学年幹事会の活性化を望みます。

高3 酒井清行

全国高校水泳競技大会に優勝した1951年当時の3年生部員として、練習は苦しかったがやり遂げた喜びと、全国制覇を勝ち取った体験の中から、生徒たちのこれからの人生に参考になるであろういくつかの要点を熱く語り聞かせている。交流会には初回から欠かさず出席、今後も皆勤を目指すつもりです。

「三稜精神」のもと全国にはばたけ

進路指導主事 原 真也

本校は、三稜精神を掲げ、「規律と品位、高い学力と道徳心を兼ね備え、高い志、伝統校に学ぶ使命と誇りを持つた生徒」を目指しています。さらに、生徒一人ひとりが高い目標を持ち、文武両道を成し遂げ、高みに挑戦する。これこそが、本校の伝統です。また、武道や茶道の世界で良く使われる「守破離」という言葉があります。「守」とはできるだけ多くの話を聞き、師の行動を見習い、価値観を自分のものにしていく。すなわち、すべてを習得できたと感じるまでは、師の言う通りに行動すべし。「破」とは、師の話を守るだけではなく、破る行為をしてみること。すなわち、師の真似から自分のオリジナルを混ぜ、新しいものをつくる。「離」とは、新しい技や形を

工夫するということより「形にこだわらない」「形にとらわれない」境地のこと。または、形から離れる境地のこと。これこそが、今、社会が求める人材であり、本校の目指すものと一致すると思います。

今春の大学入試では、東京工業大、九州大学、熊本大学医学部をはじめ、慶應義塾大学、早稲田大学、同志社大学など全国の国公立大学や有名私立大学に多数の合格者を出すことが出来ました。

これも同窓生の皆様が、よのなか講座や修学旅行東京研修での交流会などを通じて、支援並びに大きな夢を持たせていただいたお陰だと感謝申し上げます。今後とも、同窓生の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成28年3月進路実績

() 内の数字は合格者人数

国公立大学合格者 105名

東京工業大(1) 九州大(16) 熊本大(18)(医学科1名)
東京学芸大(1) 広島大(2) 島根大(1) 山口大(1)
高知大(1) 九州工業大(4) 福岡教育大(7) 佐賀大(26)
長崎大(8) 宮崎大(1) 鹿児島大(3) 名桜大(1)
北見工業大(1) 神戸市外大(1) 山口県立大(1) 福岡女子大(2)
北九州市立大(4) 長崎県立大(3) など

私立大学合格者 513名

早稲田大(1) 慶應義塾大(1) 明治大(3) 青山学院大(2)
中央大(2) 東京理科大(7) 法政大(2) 駒澤大(5)
同志社大(13) 立命館大(29) 関西学院大(4) 京都女子大(1)
西南学院大(87) 福岡大(156) 久留米大(17)(医学部医学科1名) など

準大学校合格者 9名

防衛大学校(6)(1次合格者44名)
防衛医科大学校 医学教育部 医学科(1)
防衛医科大学校 医学教育部 看護学科(1)
水産大学校(1)

公務員合格者 2名

東京消防庁消防官(1) 大牟田市消防職員(1)

部活動実績

(平成28年4月～)

陸上競技部 高総体対校南部予選

男子走り幅跳び 1位
男子110mH 2位
男子4×400m 4位
女子3000m 5、8位
男女やり投げ入賞 県大会へ

卓球部 高総体南部予選

女子団体
男子シングルス 県大会へ
国体県南部予選
男女シングルス(各2名) 県大会へ

バスケットボール部 高総体南部予選

男子5位、女子7位 県大会出場

弓道部 高総体南部予選

男子2位、他入賞2名、女子1名 県大会へ
大藤祭 男子優勝

バドミントン部 高総体南部予選

男子ダブルス ベスト8
男子・女子団体戦共に7位 県大会へ

ソフトテニス部 高総体南部予選

男子団体戦3位
男子ペア ベスト16
女子団体戦5位
女子ペア2位 県大会へ

バレーボール部 高総体南部予選

男子県大会出場

弁論放送部

県放送コンテスト筑後地区大会
朗読の部 女子入賞 県大会へ

会長14年を 振り返って

江崎正直

月日の経つのは早いもの、江口前会長より東京同窓会会長を引きうけてから満14年、副会長の時から数えると、満18年の歳月が流れた。歳を取るほど、時の流れを早く感じるようになってくる。数年前から後輩に譲らなくてはと思いつながら、この度やっと、白谷政則新会長（21回卒）へ引き継ぐことが出来たので、過ぎしこの方を振り返ってみたい。

伝習館東京同窓会の歴史

伝習館東京同窓会は、終戦直後の昭和27年に発足した。本来なら伝習館高等学校・東京支部または関東支部と称すべきところ、東京同窓会と呼ぶ。宮崎駒吉・三菱電機社長（中14回）、立花盛枝・ホテルグランドパレス社長（中19回）、古賀繁一・三菱重工業社長（中28回）といった財界重鎮の錚々たる先輩方が会をリードしてきたので、気位高く、東京同窓会で通している。前会長の江口三千雄氏は三井金属鉱業の最高顧問の要職にあり、元会長の宮崎・古賀ラインを大切に受け継いで来られた。

過去30年の長きに亘って松永肅君（5回）が世話役を務め、東京同窓会の厄介な事務一切を一人で受け持ってきた。これまでの運営に限界を感じた松永幹事長

は、平成10（1998）年、東京・千鳥屋さんに懇願して事務局を引き受けて頂いた。東京同窓会改革の第一弾である。千鳥屋の社長夫人が立花家次女の万紗子（13回）さん。お姫様とは思えない、なかなかの実力派奥さんだ。これからは女性も活躍する時代、事務局長として最適任者を松永幹事長は捜し当てた。大殊勲だった。

私が江口会長から副会長を仰せつかったのは、上記の事務局移転と同時期の平成10（1998）年であった。会長・副会長は名誉職と違って、先頭に立ってリードしないと会を活性化できない。プレイング・マネジャーでなくてはならない。厄介なことは百も承知の上、誰かがやらなければならぬ役目が、縁あって自分に回ってきたのだ。伝習館にお世話になったお蔭で今日の自分があるのだから、東京の地で少しでも母校へ恩返しが出来れば、との殊勝な気持からである。言わば義侠心で引き受けたからには、やるべきことは労をいとわず勇気を出してやろうと決心した。

平成14（2002）年7月21日、東京同窓会総会で会長就任に当たり、瀬高の親友・江崎和夫君（高2回卒）から、こもかぶり清酒「菊美人」の寄贈を受けた鏡開きで、最高の祝福・激励をして頂いたことを、ここに特記したい。

会の活性化のために、この14年間に新たに手掛けたことは、学年幹事会、東京同窓会報、修学旅行生交流会の三つである。

学年幹事会……会員の啓蒙を

副会長を二期四年務めて、東京同窓会がやっと見えてきたと思つたら、平成14（2002）年、江口前会長から突然、後継者としての会長を仰せつかった。会は組織的に運営されねばならない。その第一弾として副会長を男女それぞれ置くことにした。男子はこれまで諸般の業務をこなしてきた松永幹事長、女子は原田万紗子事務局長にお願した。

東京同窓会は戦前の旧制中学伝習館、柳河高女、及び戦後の男女共学になった伝習館高等学校の幅広い卒業生で構成される。2000名以上からなる老若男女、70年の年齢幅がある会員を一纏めにするには、どうすればよいか。そのため各学年から2、3名の学年幹事を選出して、学年幹事会を中心に運営していこうということにした。幹事の皆さんが級友の友達に、一人でも多く同窓会に協力してくれるよう努力してもらいたい、と一念からである。

これを機に学年幹事会を中心として、先ずそれぞれの学年の融和が進み、更に上下学年にまで相互の輪が広がった。後述するように二年毎の東京同窓会への参加者が倍増したことは、何よりの収穫であった。

同時に、東京同窓会会則も設けた。

東京同窓会報……会員の情報共有化

会の活性化を図るためには、単に学年幹事会だけでは済まされない。矢張り全会員が相互に、情報を共有することが大切である。それには活字に頼ることにし

て、年一回の会報を発行しよう。

会報発行は、東京同窓会として何の手がかりもないゼロからの出発なので、容易なことではない。幸いなことに、高校2回卒の我々の学年は、クラス会報「東京星座」を、この20年間、小野善睦（2回）編集長が立派な冊子で年3回発行してきている。「よし、小野君に頼もう」と彼に頼んだら、快諾してもらって助かった。東京同窓会報第1号は、平成15（2003）年1月1日、2000名の会員に配布された。A4版40ページの立派な冊子である。内容は本部、母校、先輩後輩、学年便りなど、多岐に亘って好評を博しており、昨年、既に16号まで発行することが出来た。

多数の会員に会報を発行することになると、印刷費・送料など多額の経費が必要になる。この費用をどうするか。会費では会員に強制的な印象を与える。とは言え寄付金とすればルーズになって、所要の金額が集まらなくなるのではないか。思案の挙句に中間をとって、賛助金と言う名称にして会費を徴収することにした。お蔭で、これが軌道に乗って金額も集まり、年一回・正月の会報発行は順調で、昨年（平成28年）で第16号を数えた。

会報編集長は第14号（2014年）までは小野善睦君（2回）、第15号（2015年）は内山秀生君（10回）、第16号（2016年）からは北島正常君（21回）が担当している。

修学旅行生交流会……母校への恩返し

この18年間には、7名もの館長先生方とお付き合い頂いた。

修学旅行生交流会は、母校への恩返しという私の発想から生まれた。このような催しは福岡県下の他高校には前例がなく、ユニークな奇想であったため、軌道に乗せるまでには幾多の困難を伴った。伝習館側にも、交流会場のあるホテル探しなど、多くのご苦勞があったようである。それを時系列的に記述しておこう。

1. 産みの苦しみ

伝習館は立花藩の第10代藩主・立花鑑賢公の藩校として、文政7年（1824年）創立されたことに、そのルーツがある。明治27（1894）年県立に移管され、福岡県中学伝習館と改称、昭和24（1949）年、学制改革により、福岡県柳河高等女学校と合併して、福岡県立伝習館高等学校と改称して男女共学となった。

卒業生は各地に散らばっていて全国で19の支部から構成される。毎年10月に柳川で同窓会総会があり、支部長には総会出席の義務がある。

東京同窓会・会長になった平成14（2002）年10月、柳川の同窓会に出席した折、母校伝習館へ会長就任の挨拶に立ち寄った。神坂館長先生にお会いして「伝習館の修学旅行はどこへ行っていますか。」と質問した。館長先生から「札幌か志賀高原へ4泊5日のスキー旅行です。」と聞いてびびり。

「高校2年と言えば、16、17歳の人生で最も重要な勉強期なのに、スキーに5日

間も浪費するとは勿体ない。スキーは社会人になってから、いくらでもできます。」と私は反論した。館長先生は

「この20年来、福岡県内では、どの高校もスキーに行っていますよ。それでは、東京同窓会で何かやってくれますか。」と切り返された。その時、私は何の裏付けもなかったが、咄嗟に

「館長先生、それでは東京同窓会で引き受けましょう」と言ってしまった。

とは言うものの、東京同窓会では何の準備もしていなかったため、それからが大変だった。先輩と生徒との交流会では、生徒が先輩から刺激を受けて向上することを期待している。これは、お世話になった母校への、ささやかな恩返しでもある。私の構想は、昼、生徒は社会研修、夜は先輩が生徒と車座になって、膝を突き合わせて語り合う交流会だった。

平成14年10月、柳川から帰京して直後、伝習館の中村教頭先生から

「突然のお願いですが、一年余り先の平成16年1月、修学旅行生が東京に立ち寄りませぬので、東京同窓会で面倒をみてくれませんか。」との電話を受けた。

伝習館では上村前校長の時代から、生徒はミラクルステージなるグループ学習に取り組んでいる。このミラクルステージの延長上で、修学旅行東京研修を取り上げようということになったらしい。明けて平成15（2003）年2月の学年幹事会で本件を提案したら、案の定「会長は大変なお荷物を引き受けてください」との重苦しい雰囲気会場に漂った。

東京へ行って遊びたい盛りの若者を捉まえて説教がましいことは、時代に逆行するといふのである。折から「ゆとり教育」がスタートした時期とはいえ、スキー旅行の一日を東京で研修するのは、高校生にとって有益なことに違いない。いろんな議論の末、母校から折角の申し入れだから、東京同窓会として、可能な範囲で協力しようということに収まった。

学校側から（1）昼間は課題別研修の見学（2）夜は会長の「教育講演」を強く要望された。ここで、突然「会長の教育講演を」との声が出てきたのは、5年前、私が母校・伝習館高校の開校記念日に「若人よ！二十一世紀に翔け」なる演題で教育講演した余韻が、教官方の頭に残っていたからであろう。

2. 正常化

第1回交流会は平成16年1月13日、17日スキーツアーの、初日一日だけ東京に泊まり、学年幹事他皆さん方の協力を得て、昼は会社訪問、NHK、日銀、大学、その他研究所などの見学、夜は会長講演「社会人への心構え」だけで終えた。座談会の方はホテル側から、場所が狭いとの理由で実現しなかった。第3回平成18年までは東京に一泊し、夜は会長講演だけで終わっていた。

第4回平成18（2006）年9月から学校の方針が大転換し、スキーを全廃して三泊四日が全て東京泊となった。ホテルも交流会のスペースが取れる宿泊の、早稲田のリーガロイヤル・ホテルに決まった。初日の昼間は旅行社の斡旋で大学や研究所、会社見学などの社会研修に充

てる。夜は午後8時から二人の副会長講演のあと、各クラス別に生徒と先輩が向かい合つての交流会（座談会）がやっと実現した。しかし交流会の時間が僅か30分で短く、中途半端で悔いが残った。二日目は社会研修、そして三日目はドイツニーランド見学して、四日目柳川へ帰るという日程となった。

第5回平成19（2007）年9月11日、前回の轍を踏まず、交流会の開始時刻を繰り上げて午後7時からにして、館長先生、会長の挨拶も10分以内で済ませた。すぐに各組毎に分かれて、交流会（座談会）に100分の大幅な時間を掛けたので、充分に会話が弾み、生徒たちが先輩に学ぶことも多かった。

これに先立ち、学校側から前もって東京同窓会への質問項目を各組から出してもらっていた。東京同窓会では5、6名の組担当を決め、提出された質問に事前回答を用意した。30通3万字に及ぶこの膨大な回答書原田副会長にお願いして、各組別に一覧表にきれいにまとめて頂いた。これを前もって学校へ届けた。生徒たちは事前にそれを読んで、予備知識を持って東京へ来たから、双方の会話が非常にスムーズに進んだ。

第5回交流会は伝習館側の先生、生徒の皆さんから十分に満足してもらい、「交流会を始めてよかった」との実感が湧いた。以後、この交流会形式が継続されてきて、昨年（2016年）9月12日で第14回目を数えた。リーガロイヤル・ホテル側も、受け入れに慣れてきた。クラス別の会場をきちんと作り、先輩と生

徒との交流会が盛会裏に終わり、好評を得ている。紆余曲折を経て、交流会は完全に定着してきた。

交流会の終わりには、原田副会長のご厚意で、母校伝習館の「三稜徽章入り千鳥饅頭」が生徒たちに土産として配られ、喜ばれている。

13年前、修学旅行生交流会を始めてから、東京同窓会の会員減少に歯止めがかかるという余得も生じている。交流会を経験した大学生や若手社会人が、交流会に積極的に参加するようになってから、年齢が近いので生徒との会話が活性化された。若手の同窓会員が増加して、少子高齢化による会員減少に歯止めがかかりつつあり、福岡県下の高校からも注目されるようになった。

東京同窓会総会

東京同窓会総会は、松永副会長のご縁で、以前からホテルグランドパレスで、二年に一回開催されてきた。以前は、総会・懇親会の通り一遍ですませていて、出席者も100名そこそこ。「一回出席したけど、面白くないからもう行かない」と不評を買っていた。これではいけない。やるからには出席者に「もう一遍の魅力」を掻き立てるようにしなくては、と関係者一同、知恵を絞ら合った。講演・総会・懇親会・柳川物産総当たり抽選会と、総会が多様化されてきた。その結果、出席者が260名に増加して活性化された。総会は11時開始、15時終了というパターンが定着した。

総会案内状は、会報を届けている20

00名の会員の全員に送付されているが、その回答率は36%（出席260名・欠席460名）で、約1300名の会員からは無回答であった。高齢でペンを執るのも儘ならないなら兎も角、伝習館の卒業生なら返事を出す位の常識はあるはずである。学年幹事を通してメールで返事をする等、若い人は若い人なりに工夫して返事をしてもらいたい。今後も元旦に届ける会報を通して、東京同窓会の事情も皆さんご承知のはずだから、次回以降、一人でも多くの会員からの回答を期待するものである。

11時〜12時の一時間は講演に充て、有名人からの講演を聴く。これまで服部幸應・服部栄養専門学校校長、三浦雄一郎・世界的登山家、新谷弘実（高4回）・世界的医者、尾身幸次・元財務大臣などの方々から、有意義な講演をして頂いた。柳川物産展も郷土柳川各店からのご協力を得て活気があり、その中でタイラギの粕漬けが最大の人気物である。

昨年の東京同窓会総会は、7月23日、ホテルグランドパレスで挙行された。

尾身幸次・元財務大臣から「中村天風先生の生き方に学ぶ」なる演題で、興味深いご講演を頂いた。

総会の終わりには原田副会長のご厚意で、母校伝習館の「三稜徽章入り千鳥饅頭」を出席者全員にご提供いただいで好評を得ている。

今回、新進気鋭の白谷政則君（高21回卒）が新会長に就任したので、新しい観点から東京同窓会が、更に活性化されることを期待したい。

先輩・後輩より

夏目漱石と 伝習館の先輩達と

高2 小野善睦

昨年、平成二十八年は漱石没後百年。今年、平成二十九年は生誕百五十年に当たる。

以前、誰からか次のような話を聞いたことがある。

「明治時代、東京帝国大学が発足した頃の在学生の半分近くは柳川の城内小学校の出身やったゲナバイ！」

ホントカナ？ 半信半疑で今日まで頭の隅に残っていた。八十余の馬齢を重ねると、以前と違って、ブーっと長くなり、五十年前だったか十年前だったか？ また誰といつても沢山の人々との出会いがあり、思い出すのが難しい。伝習館の同期にも東大生が二人居り、社会に出ても東大出身者との接触もあり、それらの人々にそれとなく当時の同窓会名簿があるかどうか、見せて貰えるかどうか、当たっては見たが誰も興味も示さないし、調べてあげるよと言って貰えるかと期待したが尽く期待はずれだった。去年から身内が在学することになったので、やっと東大図書館の書庫の奥にあっ

た名簿を調べて貰いコピーも貰った。結果は全くのウソと判明した。

その中の「文科大學學生及生徒」（明治二三〜二四）という名簿に、

英文學科			
第三年	立花 政樹	福岡	
第一年	夏目 金之助	東京	
哲学科			
第二年	立花 銑三郎	福岡	

という聞いたことのある名前を見つけた。金之助は漱石であり二人の立花さんは郷土の先輩である。

政樹公こと立花政樹と漱石

先ず漱石の文章「滿韓ところどころ」から……

「政樹公が大連の税関長になっていて聞いて一寸驚いた。政樹公には十年前上海で出逢ったぎりである。その時政樹公は、サー、ロバート、ハートの子分になって、矢張りその税関に勤務していた。政樹公の大學を卒業したのは余より二年前で、二人とも同じ英文科の出身だから、職業違いであるにも拘わらず、比較的縁が近いのである。

政樹公の姓は立花と云って柳川藩だから、立派な御侍に違いない。それを何故立花さんと云わないで、政樹公と呼ぶかと云うに、同じ頃同じ文科に同藩から出た同姓の男がいた。しかも双方とも寄宿舎に這入っていたものだから、立花君や

立花さんでは紛れ易くていけない。一方は政樹という名だから政樹公と呼び、一方は銑三郎という俗称だから銑（せん）さん、銑三さんといった。何故片っ方が公なのに、片っ方はさん付にされてしまったのか、一寸分らない。銑さんの方は、余と前後して洋行したが、不幸にして肺病に罹って、帰り路に香港で死んでしまった。そこで残るは政樹公ばかりになった。従って政樹公をやめて立花君と云ったって少しも混雑はしないのだが、つい立花よりは政樹公の方が先に出る……」

筑後柳川立花藩五百石の藩士の長男として一八六五年（慶応元年）、城内村本町に生まれた。伝習館の前身福岡県立柳河中学校を卒業、上京して東京共立学校・東京大学予備門・第一高等学校を経て帝国大学（当時は大学は東京帝国大学のみ）英文科大学英文学科ただ一人の学生として入学した。政樹が日本最初の一期生だった。先輩もなく後輩もなし。お雇い外国人教師一人に生徒一人だから政樹が欠席すれば自然休講になった。政樹が三年の時、漱石がただ一人入学してやると二人になった。政樹は「当時は何も文学・語学を研究しようなどという目的でなく、単に語学の教師になろうとして英文や独文に入学したもので、実際語学の先生は不足していた時代でした」と語っている。一八九一年（明治二四年）七月帝大を卒業、日本最初の英文学専攻の文学士となった。そして私立山口高等学校（現・山口大学）の教授として赴任する。然し一年後の十月、旧藩主立花寛

治伯爵より郷里の私立中学伝習館で学校騒動が起きて収集がつかず、帰郷するよう懇願され二十七歳で伝習館館長になった。

―閑話休題―

ここで皆さんお持ちでしたら伝習館「同窓会名簿」や「創立百七十周年記念誌」を見て下さい。

中学伝習館第一回卒業は明治二十七年三月でそれ以前の卒業生名簿はない。また年表によると県立になったのは明治二十七年一月で

- ・教育令制定の明治十二年から十八年まで県立柳河中学校（政樹卒業）
- ・十八年八月から二十年四月まで、公立中学伝習館
- ・明治二十年から二十五年まで、橘蔭学館
- ・明治二十五年から二十六年まで、私立尋常中学伝習館

となつている。政樹が館長になった結果が機縁となつて学校騒動の首謀者の一人、後の国文学の泰斗・東大教授、藤村作（県立中学伝習館第二回卒・同期十四名と共に名簿に載っている）が誕生することとなる。

即ち、血の気の多い藤村達十人程は校風刷新を唱え、教職員の本なメンバーに辞職を迫り多数の生徒を連れて職員室に押しかけたが聞き入れられなかったので翌日から生徒全員がストライキに入つた。数日後、首謀者十人が「授業妨害の罪により退学を命ず」とい



夏目漱石（日本近代文学館）

うことになる、他の生徒も続々と退学届けを提出し学校側と対立した。この騒動も仲に立つ人がいて収束するが、藤村は最後まで節を曲げなかった、城内小学校で大変世話になり尊敬していた先生の説得によりやっと復学した。その後、着任した政樹館長の徳薄により文学を志し、五校・東大へと進むのであるが、藤村は政樹を終生の大恩人として尊敬し続けた。近隣の藩校に遅れていた伝習館もようやく政樹らの努力により県立中学伝習館となる。

藤村が進んだ熊本の第五高等学校は、英語教師はアメリカカ大学出身者など多士濟々ではあったが、注釈や発音など通り一遍の授業が多く学生たちには不評だった。そこに東大出の夏目金之助先生が登場する。藤村はその著作の中で漱石先生をベタ褒めしている。

「夏目先生は解釈を主として講義された。学生を指名して一節一節の解釈をさせ、その後で先生の方から質問され、また学生の質問にも答えられた。先生は頗

る辛辣で「君はいったいどこから来たんだ！ フン、中学からやり直すんだナ！」などと冷然と言われる。これには学生達も憤慨として、クラスでとつちめてやろうと衆議一決し、全員総がかりで熱心に下調べをして、授業中に質問攻めで対抗したが、いずれの質問にもすらすらと、明快に回答され、結果、今度の先生には歯が立たないと敬服の念が高まり、学生たちの方からお願ひしてハムレットやオセロを課外講義してもらった。

「夏目先生から得た英文学の知識は甚だ多かつたが、語学の教授というものは単に言語文章を理解し得るだけでは良い教師とはいえない。先生は文豪といわれる程になる方だけあって、英文の解釈でも豊富な日本語での表現を駆使され、その言葉が我々にはピタリと来て成程と深く納得させられた」と。

……話を政樹公に戻そう。

その後、政樹は仙台の第二高等学校（現・東北大学）教授を経て、清国上海税務司として中国上海に赴任する。漱石は英語教育と英文学研究のため英国への留学を命ぜられる。

種々の不安を抱きながらの英国への航海中上海に上陸した漱石と同行の芳賀矢一は、一夕、政樹に招待され政樹の住まいの日本旅館で晚餐を共にし大いに歓談、午後九時には三人、公園で音楽隊の演奏を聞いたたり、南京路・四馬路を散策したりしている。翌日も政樹が来て午餐を共にした。

政樹はその後清国の税関を転々とし大連海関署税務司になる。その頃漱石は朝

日新聞社の専属作家となっており、旧友の満鉄総裁、中村是公の招待で満州・韓国旅行に出かけた。その時大連に立ち寄った時の文章が前記の「政樹公が大連の税関長になっていると聞いて一寸驚いた云々」である。再会した二人。

「おい、夏目。大分金を貯めたそうだな」

「いやいや神経衰弱で弱っている」

「なら直したらよからう」

「いや、そうすると小説が書けなくなるといふようなやり取りがあつたらしい。漱石はこの後、旅順に赴き、旅順民政署長官白仁武に会う。」

白仁武は政樹公の柳河中学校の先輩で、且つ、後述するが漱石にとって、ある面で大恩人といつてもいい白仁三郎（後、坂元雪鳥・伝習館中学第四回卒）の実兄で、その後、八幡製鉄所第五代長官、日本郵船社長等になっている。

白仁は一夕、民政署長官主催というところで大歓迎会を旅順ヤマト・ホテルで開催、民政署の高等官も多数列席し、漱石達を夜の十時頃まで歓待している。その後、漱石と政樹との交流の痕跡はない。

七十六歳で没。税関長になつても、酔えばハムレットの「ツービー・オア・ノットツービー……」を名優ばりに吟唱したという。柳川の福巖寺に眠る。

銚さんと立花銚三郎と漱石

漱石が東大卒業後、学習院大学への就職を銚三郎に依頼した書簡。

「……此際断然決意の上学習院の方へ出講致し度因て御迷惑ながら御周旋被下度……；乍略儀書状にて御願申上候……」

しかし、漱石の学習院への就職運動は失敗する。

一頁の文中漱石は、政樹公も銚さんも同じ藩と書いているが、これは正確に言えば間違いで、銚さんの方は同じ立花藩でも支藩の三池立花藩の家老の三男として生まれている。（長兄の立花小一郎は陸軍大将、福岡市長、貴族院議員）

伝習館の先輩ではない。福岡県立橋中学校（銀水公立中学）を卒業している。

漱石と同年で東京大学予備門には一緒に入学したが、漱石が腹膜炎で留年したため、帝国大学では一年先輩となり哲学科に在籍した。でも漱石等と一緒に「哲学雑誌」の編集委員、「紀元会」の同人など親しい交流は続いていた。

銚さんは帝大在学中から学生の身分で学習院講師、東京専門学校講師も兼ねていた。大学院時代には学習院教授にまでなっている。旧三池立花藩主立花種恭が学習院の初代院長をやつていて、その推挽があつたのだと思われる。

一年遅れて卒業した漱石たちの同期は大変な就職難に直面し、漱石も銚さんを頼って就職運動を試みたのだろう。結果は失敗に終わったが二人の交流はその後も変わらず続く。

銚さんが子爵曾我祐準（注）の次女と結婚した時には、披露宴にも出席している。また、この頃流行だったらしいが、写真館で上半身の写真を撮り、裏面に「謹呈／立花銚三郎君／辱交／夏目金之助／明治二十七年四月吉日」

と五行に認めて贈っている。注・曾我祐準―柳川城内坂本町生れ。陸軍中将、初代陸軍士官学校校長、大正天皇付武官、日本鉄道株式会社社長、貴族院議員等歴任。

終戦前迄旧柳河高女の校庭に、見上げる程の記念碑が建つていたので覚えていた人も多いと思う。

司馬遼太郎の『翔ぶが如く』にも西南戦争の西郷軍を最後に攻撃する第四師団の司令官として登場している。

銚さんへは漱石が熊本の第五高等学校に移つてからも、五高の退学生が学習院への編入、卒業生の学習院大学部への入学の斡旋依頼、銚さんの奥さんが亡くなったのを悼む書簡などを送つている。

漱石より一年早い明治三十二年八月、銚さんはドイツ及びイギリスに留学を命ぜられる。留学中の二人は度々ロンドンベルリン間で文通をしていたが、銚さんは病を得て帰国することになり、ロンドンに寄港した銚さんの乗つた船を漱石が訪ね、（友人から不治の病であること）を聞いていて、涙ながらに最後の対面をした。この時のことを漱石は

「立花の病氣は駄目なりとあり氣の毒限りなし」と日記に。銚さんは

「戦争で日本負けよと夏目言ひ」という句を付けた書簡を残している。銚さんは、再び故国の山河を踏むことなく満三十四歳で瞑目した。

銑さんが、日本最初のターウインの「種の起源」の翻訳者であることは余り知られていない。

白仁三郎（坂元雪鳥）と漱石

以下「三郎」という一明治十二年城内村袋町の武士の家に生まれたが明治維新で多くの武士階級と同じく没落、一家は三橋村の矢加部に移住、農業に従事したりして苦勞した。伝習館から熊本の第五高等学校へ進み、そこで漱石と出会う。五高では紫溟吟社という句会を結成し漱石を宗匠として連座を開いたりした。

同窓会名簿では、中学伝習館第四回卒四十一名の中に「坂（白仁）元三郎」と誤植されて載っている。

ブリタニカ国際大百科事典には「坂元雪鳥」の名で、

一 能楽評論家、本名白仁三郎、東京帝大国文科卒。東京朝日新聞社に入社。一九〇八（三八）主に「朝日新聞」紙上に「天邪鬼」の筆名で能評を執筆、のちに『坂元雪鳥能評全集』にまとめられた。日本大学の国文科教授でもあり、法政大学、東京女子大学の講師も兼任。また雑誌『能楽』の主幹もつとめた。『能楽資料』の編纂をはじめ、著書に『能楽論叢』『能楽筆陣』がある。一とある。

漱石が帝大教授の声もかかっている中で、プロの專業作家を目指すかどうか大いに悩んでいた明治四十年三月十一日、教え子の三郎に宛てて書いた手紙。これは漱石にとっての重大な決意

の書簡であつた。全文紹介してみる。

*

拝啓。先日御話の朝日入社につき多忙中未だ熟考せざれども、大約左の如き申出を許可相成候へば進んで池辺氏と会見致したくと存候。

一、小生の文学的作物一切を挙げて「朝日新聞」に掲載する事

一、但しその分量と種類と長短と時日の割合は小生の随意たる事。（換言すれば小生は一年間に出来得る限り感興に応じまた思索の暇を見出して凡てを「朝日新聞」に致す事。但しもとより文学的の述作故に器械的に時間を限る能ず。小説などにも同数を受合ふ訳には行かず。時には長くなりまた短くなり、または一週に何度もかき、または一月に一、二度しか書かぬ事あるべし。しかして小生のやり得る程度は自己にも分らぬ故先づ去年中に小生がなし得た仕事を以て目安とせば大差なからんかと存候。尤も去年の仕事は学校へ出た上の事故専門に述作に従事せばあるいは量において多少の増加を見るに至るべきかなれど、まづ標準はあの位と御考ありたし。しかして小生の往時の過半は無論美文ことに小説にあらはるべきかと存候。

（あるいは長きものを一回にて御免蒙るか、または『坊ちゃん』のやうなものをして二、三篇かくか、その辺は小生の随意とせられたし）

一、報酬は御申出の通り月三百円にてよろしく候。但し他の社員並に盆暮の賞与は頂戴致し候。これは双方合して

月々の手当の四倍（？ わからず）位の割にて予算を立てたくと存候。

一、もし文学的作物にて他の雑誌にやむをえず掲載の場合には、その都度朝日社の許可を得べく候。（これは事実として殆んどなき事と存候。既に御許容の「ホトトギス」といへども入社以後は減多に執筆せぬ覚悟に候）

一、但し全く非文学的ならぬ（ママ）もの（誰が見ても）、あるいは二、三頁の端もの、もしくは新聞に不向なる学説の論文等は無断にて適当な所へ掲載の自由を得たく存候。

一、小生の位地の安全を小池氏及び社主より正式に保証せられたき事。

これも念のために候。大学教授は頗る手堅く安全なものに候故小生が大学を出るには大学ほどの安全なる事を希望致す候。池辺君は因より紳士なる故間違いなきは勿論なれども万一同君が退社せらるる時は社主より外に条件を満足に履行してくれるものなく、また当方より履行を要求する宛も無之につき池辺君のみならず社主との契約を希望致し候。

畢竟するに一度び大学を出て野の人となる以上は再び教師などにはならぬ考故に色々な面倒な事を申し候。なほ熟考せばこの他にも条件が出るやもしれず。出たら出た時に申上候が、先づこれだけを参考までに先方へ一寸御通知被下たく候。先は右用事まで。

草々頓首 夏目金之助

白仁三郎 様

*

この頃三郎はまだ東京帝大の学生だつ

た。年齢は二十七、八歳。何故かというのと、一度、東京帝国大学法科大学に入學したが、三年後に病氣で柳川に帰り療養。今度は同じ東京帝国大学国文学科に再入學したためである。漱石とは五高以来の縁であり、漱石の講義も聴講し、漱石家にもよく出入りしていた。朝日新聞とは単なる寄稿者としての付き合いで社員でも何でもない。それでも朝日新聞の主筆・池辺三山（吉太郎）は三郎の手柄を見込んで漱石との交渉役に指名したのである。

漱石も三郎の誠実さに全幅の信頼を置き、時には自分の恥部をもさらけ出して、朝日への希望を伝えて貰っている。

この前後、両者の間では「三日にあげず」という程の間隔で訪問し書簡のやりとりが頻繁に行われている。

漸く東京朝日新聞と漱石の間で入社契約が結ばれたのは三月十五日。月給二百円。賞与二回。（当時の大学教授の月給は一五〇円程度）

四月十二日漱石から三郎への礼状—今回の事は（中略）大兄の奔走にて三分の二以上成就致候事と信じ居候御禮の為まかり出で可きの処、そこは例の通りの無精にて手紙を以て代理と致し候—と。

七月に三郎は東京帝大を卒業するが、本人が知らぬ間に、漱石の推薦で朝日新聞社への入社が決まっていた。十二月に見習期間終了し正式社員となる。

十一月頃から、漱石は毎週金曜日に謡曲を習い始め、三郎を捉まえては漱石がワキ三郎がシテで「蟬丸」「三井寺」「藤戸」「阿漕」「熊野」「忠度」「善知鳥」

「弱法師」などを一緒に語った。

明治三十四年八月、漱石が生死の間をさまよった、いわゆる「修善寺の大患」の折には、既に退社していたが朝日新聞社の依頼で、数週間も、漱石の枕頭に侍り、肉親も及ばぬ看病に努めた。看護婦二人と二人の門弟計五人で、漱石の浣腸をした後のお尻を拭いたり、便の後始末もした。

しかし、二人の会話

「先生はAやBには厳しいことを仰るけれども、私にはお叱りになりませぬね」
「君はいつも行儀良くしてるんだから、紳士として遇しているのさ」
「親しみが薄いわけですね」

―後に書簡でも
「僕は君の全てを知らない。君は君の全てを僕に語らない、つまり君は僕に遠慮がある。従って僕も君には遠慮がある。其所に礼儀はあるかも知れぬが打ち解けない所もある、是は君から見ても事実だろう」
と伝えている。

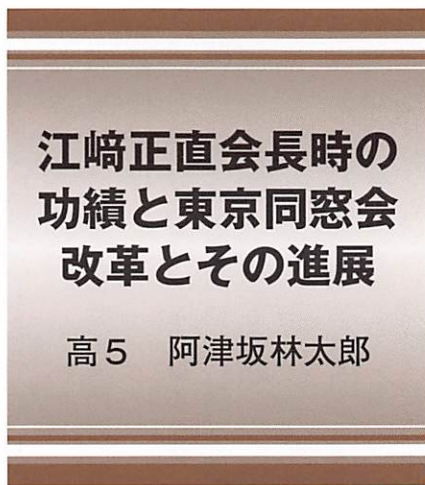
病が癒えた漱石とはこの後も度々一緒に謡曲を謡ったりして親しい交流は続くのだが、武家育ちの三郎には、先生はあくまで先生であり「三歩下がって師の影を踏まず」という謹厳実直さが生涯付きまとったのではないだろうか。

漱石は熊本の五高時代、明治三十年十一月十日、伝習館に英語教育の視察のために来訪し、詳細な参観報告書を残している。(高二同期会誌「東京星座」掲載)

また、五高時代漱石家に書生として住み込み後々まで面倒を見て貰った二人のうち、久留米出身の俣野義郎は『我輩は猫である』に登場する多々良三平のモデルといわれ、もう一人の土屋忠治は、明治三十八年二月から十二月まで伝習館の嘱託講師として伝習館の記念誌にも載っている。後に各地の裁判所の検事を務め、退官後、柳川市本町で弁護士を開業した。

そういえば、大文豪を批判するわけはないが、『我輩は猫である』の中で多々良三平が喋る九州弁は久留米弁か唐津弁か知らないが、柳川弁名人の筆者には違和感が残る。同窓の皆さんも、もう一度その辺を読み返してみてもハイヨ！

「終」
(敬称略)



はじめに
八十なかば想うは古賀の銀蜻蛉
ふるさとを白秋は産土というキークワ

ードを用いて表現し、室生犀星は、遠く
にありて思うもの」と詩った。齢八十過
ぎては帰郷も叶わなくなった。こんな
今、故里柳川を、母校伝習館に思いを馳
せるのは私ばかりであろうか。そんな
中、伝習館東京同窓会は私の懐旧の情の
炬火そのものであるといってもいい存在
である。昨年七月二十三日に、二年に一
度の東京同窓会総会、懇親会は例年の如
くホテル・グランドパレスで盛大に催さ
れた。参加者は旧制中学四十六回(昭和
十四)年卒の前原弘先輩から高校四十五
回(平成十)年卒の金見美佳さんまで二
百六十七名が結集した。会の中味は講演
あり、歌あり、地元物産品の抽選あり、
地元料理等で盛り沢山のおもてなしに同
窓生の心はひとつになっていった。

ここまで東京同窓会を盛況に導いてき
た功績は江崎正直会長の卓越したリダ
ーシップにあると云っても異論あるま
い。これまでの東京同窓会の活動の沿革
については、本誌に連載された元副会長
故松永肅君の筆になる東京同窓会の歩み
(その1、12)に詳しい。但しここでは
私の体験に即して辿ってみることにす
る。最初に東京同窓会に出席したのは昭
和四十六年であったと記憶する。立石勝
美先生からの生徒達が狼藉を働いて、
伝習館内は無法地帯と化しつつあるとい
う便りで紛争の有様はある程度は承知
していた。ただ同窓会の現場に臨んでみ
て、両陣営が対峙して非難轟々、怒気飛
び交う修羅場を目の当たりに見て索漠た
る気分が襲われた。次回は昭和四十八、
九年頃で、同窓会の会場そのものが、柳

川市長選挙の宣伝合戦の場となって行っ
た。余談だがこのことからの教訓が本誌
の編集方針に政治色を持ち込まないとし
たのは蓋し卓見といえよう。

上記の同窓会の状況に嫌気が差してし
ばらくの間は出席を控えていた。ところが
平成元年になって母校サッカー部が全
国大会に出場するというビッグニュース
が飛び込んで来た。それについての同期
の故永江秀作、田中禮二君等の肝煎りも
あって、その年の三十日に壮行会が、横
浜のニューグランドホテルで開催される
というので出席することにした。参加者
は古賀繁一会長はじめ、来賓、役員、同
窓生併せて百五十名に達し、会そのもの
は異常な盛り上りを見せた。爾後マンネ
リ化して行った同窓会にも時偶出ること
はあったが……。

東京同窓会そのものが、活気を帯びて
来たのは江崎さんが副会長に就任されて
何年目からはなからうか。

ここで、江崎正直氏が会社の事業発展
のプロセスで、難局を克服するために如
何に苦勞されたかを知って、その経験が
東京同窓会の運営に大いに寄与したと確
信されるので、氏のプロフィールの一端
を私なりの切り口で示すことにした。

◎社人間 江崎正直氏の生き様

昭和八年一月一日、父栄次郎氏の二男
として、柳川市古賀(旧三藩郡昭代村
古賀)に生る。

昭和二十六年三月、「学問ではメシは
食えん」という父親の猛反対を押し切
って九大進学。

昭和三十年四月、九州大学工学部応用化学科卒業と同時に東洋高庄工業入社、下関市の彦島工業所（以下、彦工」と記す）に赴任。当時会社内では工場閉鎖の対象となっていた「彦工」を見事立ち直らせた。この五年間昼夜分かつた働きづめであったが従業員七百名ともとても親しくなった。

昭和四十三年八月、入社以来「熱力学」と「反応工学」の勉学は怠らず、九大の恩師坂井教授のチェックを受けた上で「エンタルピー・組成線図」を共立出版から処女出版されたのを始め、十数冊の著作を著されている。

昭和五十七年三月、四十代の若さで、「彦工」所長へ。当時の「彦工」は大赤字を出し、工場閉鎖の危機に瀕していたのを、「彦工」は「潰してはならない。絶対に再建しなくては」の掛け声のもと意気込んで再建に当たった。この時点で従業員六百名、売上高二億四千万、年毎の赤字額は二十億円もある有様であった。ただかつての部下の支援協力もあり、諸施策を結集して、わずか三年余で黒字化に成功し、大目標が達成された。この年「彦工」で、生産開始以来六十周年目に当り祝賀会が催された。この席上で、江崎氏を中心に著された「彦工六十年史」が参会者に記念品として贈呈された。会社史の中で、社内の者が執筆者となる例は極めて希有であることを強調しておきたい。

昭和六十二年、同社常務取締役就任。大牟田工業所長（3000人）

・平成五年、関東天然瓦斯開発専務取締役・茂原鉱業所長

・平成七年一月、同社代表取締役社長。業界八社のリーダーとなる。

・平成十年、世界で唯一の「ヨード学会」を発足させた。

・平成十一年、関東天然瓦斯開発の取締役相談役へ。

以上のプロフィールから敷衍すれば、江崎氏の経営理念の根幹には、社員を朋友として信じ親しく接する姿勢、働くということは傍の人達（家族・社員）を楽にしていこうという思いやり、それに会社経営の諸々の難関を突破していくアイデアと実践力が見えてくるが如何であろうか。

上記のように会社経営に裏打ちされた実績をお持ちの江崎さんは東京同窓会を「どげんかせんといかん」という問題意識を深められたようである。氏の執筆になる「人生はドラマ……私の社会人自分史」によれば「戦後この方、歴代会長は大手企業の社長、会長を勤め上げた錚々たるお方ばかりで、終身会長であった。何かあれば会長のポケット・マネーでまかなうという古いやり方で運営されていた。小生が平成十年に副会長に引っぱり出される以前から江口三千雄先輩が会長を務められていて、会とは称すれど会の規約も何もなかった。以上の如き実情から編み出されたのはまず会則の制定であった」。以後江崎会長が推進されてきた東京同窓会改革の骨子は次の四項目に収斂されると思われるがその実践にも触れたい。

東京同窓会改革とその進展

① 学年幹事会を中心に東京同窓会を組織的に運営し、活性化を図る。その活動状況は会報のほぼ毎号に記事として取り上げられている。学年幹事会十五名の中から常任幹事が選ばれて、その中から白谷政則氏が新たに会長に就任した。

② 会の財政基盤強化に賛助金を頂く。この項については会費徴収という案もあったが他校の実情調査で、あまりうまくいっていないという事実を参考に、まずは賛助金とした。賛助金に係わる関連記事も、本部より「の中に掲載中なので御覧あれ!!!」

③ 役員を任期制とする。この度の総会で、副会長四年、会長十四年の長きにわたってその任に当ってこられた江崎正直会長が名誉会長になられた。前述の如く新会長には白谷政則氏（高21回）が選任された。

④ 活性化の一環として会報を発行する。会報第一号は平成十五年一月に創刊され、平成二十八年現在で十六号まで刊行されている。記事内容は第十六号では①「東京同窓会本部より」（この項の中で、江崎会長の持論である「教育は人づくり」の実践の場として「修学旅行生とOBとの交流」の模様が記事として取上げられている）、②「母校より」、③「先輩後輩より」、④「学年だより」、⑤「ふるさと瓦版」、⑥「書籍紹介」となっている。同窓生の多くは本紙が毎年一月に送付

されて来るのを心待ちにしている。

この項をレジュメれば、かつてから旧態依然として会の運営に何本かの主柱を組み、改革、進展に尽くされてきた江崎会長の功績は大いに賞賛されてしかるべきであろう。同窓生諸氏、大きな拍手喝采を贈るうではないか。

江崎氏は若い頃から文章を綴るのが好きで、文才に長けておられ、民間人として多くの著作を物されてきたのでその分身ともいべきものを最後に『主要著作目録』として掲げることとした。

後記 この文を草するに当り、江崎氏の「人生ドラマー私の社会人自分史」、本誌の各号、伝習館同窓会名簿（平成13年12月刊）、「日本紳士録」第七九版（交詢社出版局編刊）等を参考資料として利用した。謝する次第である。

著作目録

1. 江崎正直「エンタルピー・組成線図」共立出版社、1968年8月、A5判162頁、700円
2. 澤 忠宏「関の郭・盛衰史」中原印刷、1985年4月、A5判275頁、非売品
3. 「彦工六十年史」中原印刷、1985年5月、B5判423頁、非売品
4. 国際ロータリー第271地区（山口・広島）GSE委員会『研究グループ交換報告書』（和英併記）中原印刷、1986年3月、B5判220頁、非売品

5. 江崎正直『関のつれづれ』中原印刷、1987年6月、A5判148頁、非売品
6. 江崎正直『わがするひと——江崎潮太郎・キミ追悼集』江崎印刷、1991年5月、A5判94頁、非売品
※「わがするひと」は自分が率先してやる人
7. 江崎正直『ありあけの月』江崎印刷、1992年6月、A5判264頁、非売品
8. 江崎正直『完全燃焼の方程式』菜根印刷、1996年10月、四六判298頁、1400円
9. 清山哲郎・浅見章晴・江崎正直『二十一世紀は化学の時代 翔け 化学技術者』中原印刷、1998年5月、四六版400頁、2500円
10. 江崎正直『色材の小百科』工業調査会、1998年8月、B6判309頁、2200円
11. 江崎正直『教育は人づくり』文化出版、2012年9月、A5判202頁、非売品
12. 江崎正直『海外・四方山話』文化出版、2013年9月、A5判293頁、非売品



昨年大相撲初場所で絶好調の地元出身の大関 琴奨菊が初優勝してやがて一年になろうとしています。

地元出身の大関 琴奨菊が初優勝

このところ外国出身の力士ばかりが優勝してきましたが、日本人出身の力士として十年ぶりの優勝と、マスコミは大きく報道しました。

東正大関となって八年ぶりの優勝は私たち地元柳川出身者をはじめとして全国民を大変感動させてくれました。

その後、琴奨菊関は、三十二歳の誕生日でもある一月三十日都内のホテルニユーオオタニで、既に結婚届を出していた新妻祐未さんと古賀誠氏（元衆議院議員）の仲人で結婚披露宴が行われ、大相撲優勝と、ご結婚のダブルお祝いに、私たちもご招待を受けました。

結婚披露宴は、後援会長の立花寛茂さん、金子健次柳川市長、川崎隆生西日本新聞社社長、森喜朗元総理など約六百三

十人が一堂に集い、大勢の方々から大変な祝福を受けていました。
地元柳川では、この優勝を祝して、川上りの水上パレードが華々しく行われて喜びを共有したとのことでした。
この琴奨菊関とは、それ以前に琴奨菊東京支部後援会の関係で毎年東京場所が行われる佐渡ヶ嶽部屋の千秋楽祝賀会で、何度かお会いしていました。

柳川観光大使の集いで同席

また柳川市長が主催した「柳川観光大使の夕べ・座談会」では、祐未奥様ともお会いして、いろいろと楽しく懇談する機会があり、披露宴でもお話する機会に恵まれました。

琴奨菊関の初優勝は、柳川観光大使として最も柳川を全国に広くPRした第一人者と思っています。

私も柳川観光大使の末席をけがす一員として、一昨年十一月、練馬まちづくり「歴史と文化講座」で、十七代当主が語る戦国武将 立花宗茂公の生涯について、子孫の立花宗鑑氏に講師をお願いして講演会を開催し、百名近い方々が参加されて歴史愛好家などに大変好評をいただきました。

また、東京福岡県人会では、会報の「東京と福岡」で、柳川関係の先達として、これまで立花宗茂、田中吉政、安東省庵、北原白秋、檀一雄、木村緑平などを広く紹介してきました。

今後も柳川に関連したものを積極的に



結婚披露宴の二人



観光大使の夕べ

寄稿し、郷土柳川の広報活動をしていきたいと考えています。

尚、「広報やながわ」で、柳川の良さを世界に伝える伝道師「柳川観光大使コラム」の掲載が平成二十八年九月より始まっています。毎月二人ずつですから、私は、今年の五月頃に掲載されることになっていきます。



私が裂織^{さきおり}と出会ったのは友達の家で珍しい織りのコートを見たのが最初でした。定年まで、服飾の仕事をしていたので色々な生地を見たり、使用したりしてきました。織物に生地を使って織り上げた織物は初めてのこと、デザインはともかく、裁断し作品を作りあげるのにはどのような縫製をするのか疑問でもあり、どのような手順があるだろうか、地域のクラブで習うことにしました。

最初は簡単な気持ちで始めたのですが、手間がかかる仕事です。始めた生地も細く紐状に裂き、それをくるくると毛玉のように巻いていきます。織り機に糸

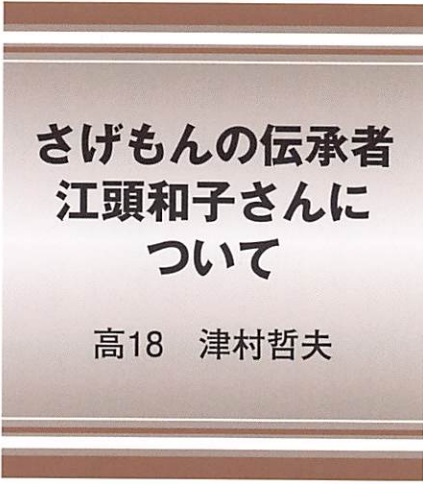
糸を張り、やっと織り始めるのです。経糸に裂いた布を緯糸として入れ込んでいくのですが、最初は失敗の連続でした。緯糸の入れ方が緩かったり、強かったりと一定の力加減がわからず、広い箇所もあれば、狭い所もあり、縮みすぎて蛇行した織物になり、苦戦の連続でした。

でも重ねるごとに上手く織れるようになってくると、いろんなことを考えるようになりまし。その一つが素材の選択です。木綿、絹、麻、時には毛糸、ジーンズも使うことがあります。やはり木綿が使いやすい、比較的手に入りやすいのは古い着物で絹です。骨董市で購入したり、知人から譲ってもらったりしていますが、骨董市に出かけると、着物や帯が山積みになっているのです。その中から、色や柄がきれいな、そして使いやすいものを探すのも楽しみの一つです。

もう一つは配色です。経糸は数色の糸を張ることが出来ます。この経糸に裂いた布で織っていきます。経糸の色や入れ方が変わると模様も変わり、どんな柄になるのか、織りあがってみたいとわからないのが面白いところもあり、裂織のよさかもしれません。また色だけではなく、伸縮性や厚みなどの素材の特性に注意すれ



ば、木綿と絹などの異なる素材を混ぜて使っても構わない自由度の高い仕事かもしれない。裂織は軽さ、しなやかさ、これを作品に作り上げる楽しさは、裂織の醍醐味といえます。作品は丈夫で温かく、使い続けると柔らかい風合いになります。これからも楽しみながら、気楽に続けていきたいと思っています。



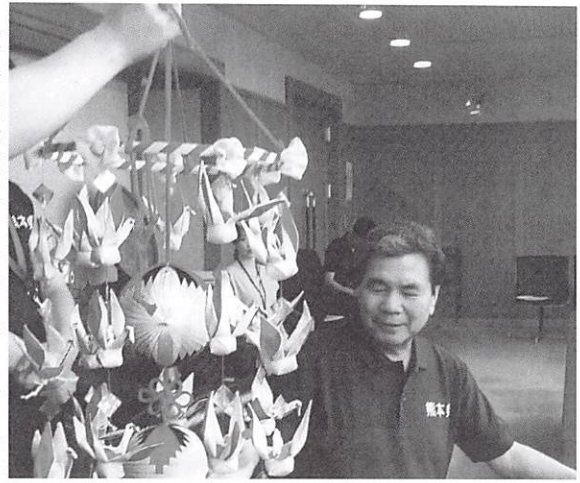
柳川まり、さげもんの伝承者、江頭和子さん（柳河高女を昭和20年卒業）のお話です。

本土空襲も始まった年の3月に柳河高女を卒業してからも、終戦の8月まで勤労員のため、皆あちこちに派遣されて

いたそうです。私たちの知らないくらい思い出も話しておられました。その後、結婚、子育てと主婦業に専念されていましたが、そのうち柳川には「さげもん」「柳川まり」といって、雛の節句の飾りがあります。それを始められ、創作意欲に火がついたようです。

昭和39年、東京オリンピックの時、福岡県から依頼を受け、柳川まりを制作し、出展。以後も次々に制作され、86歳の時は直径86センチのまりを、88歳の今は88センチのまりを完成させています。通常はせいぜい50センチまでが限度となっていて、ギネス級のりっぱな刺繍まりとなっています。

今回、熊本の震災では49人の方たちの協力で、柳川地方から祈りをこめて、鶴のさげもんを熊本県庁に贈りました。長



※写真は江頭和子さんから贈られた鶴のさげもんと蒲島郁夫熊本県知事

寿を表す鶴は、1日も早い復旧、復興を、そして平穏な日を迎えられるようにとの思いからのものでした。自分のお孫さんのために作っておられた、まりを中断しての制作となりました。鶴のさげもんの中央には鶴のまりを入れました。そのまりには初めての試みとして、鶴の顔がつけられました。7人のグループのお友達とは仲が良く、制作に励み、充実した日々を送られています。まだまだ元気な米寿の江頭さんです。「どうぞみなさんも達者でお暮らしてください」と逆に私が励まされた次第です。

総会で江浦会

高18 吉田シヅカ

東京同窓会総会では思いがけず、大都会東京で、狭い狭い故郷江浦小学校の諸先輩方にお会いできて、大感激いたしました。

また、高木節子様のお引き回しをいただき、かくしゃくと乾杯の音頭をして頂きました前原弘様(中46)をはじめ、江浦小学校卒業生のたくさんの方ともお話しが出来、有難い時間を過ごすこと

が出来、夢のようでした。

昭和39年、私の高校受験の時は三池高校が一番人気で、私もそこを受験するつもりでしたが、伝習館出身の恩師が、「お前ぐらい伝習館に行かんか?」と言われ、受験した次第です。でも、そのお陰でこうやって、皆さまにお会い出来た訳で本当によかったと思っています。その後、妹、弟も伝習館の同窓生へと続きました。

それにしても、驚きました。あの会場に、5人もの(もつとかな?)江浦小学校卒業生がいらつしゃったことに。当時(昭和30年~36年)の江浦小学校の運動会はさながら、村祭り、お店が並び、前日から子供達は場所取りして、当日は家族総出でお弁当を囲み賞品を自慢しあい、ささやかな幸せがそこにありました。今でも、運動会で売られていた「青切りみかん」を見ると、懐かしさで甘酸っぱい思いがこみ上げて、幸せになります。

母は普段の野良着をこざっぱりした服に替え、朝早くから、得意の具だくさんの太い海苔巻きを作り、祖母は前日からクチナシの実でお米を黄色く染め、おむすびを作り、「岡持ち」のような形をしていて、中に小さい重箱にご馳走を入れたもの?(名前不明。どなたか教えてください。に詰め応援に来てくれました。)

今は、こちら静岡の小学校の運動会は親子で弁当を囲むこともなく、生徒は教室で弁当を食べ、親達は所在なげに校庭やファミレスで食事をとる。変わりましたね。

もう一つ、夏になると思い出すことは、学校脇の川? 堀? を堰き止めたプールで泳いだことです。プール開き前には上級生がそこを清掃し、ヌルヌルした底がたまらなく嫌でした。それでも、プールの時間は楽しかった。普段は矢部川で湯スキーなどをし、ムツゴロウを追っかけ、帰りには湯で獲ったアゲマキや、足で川底を探って獲ったシジミを土産に帰宅。

両親も他界し、仲良しだった幼な馴染みも先に逝ってしまい、故郷も遠くなつたと達観していた昨今でしたが、なんとなんと、そうではなかったことに、同窓会会場で、江浦小学校卒業生の諸先輩と色々お話しさせていただく中で気が付き



ました。

※写真Ⅱ江浦出身は前列右から原朗様(中54)、前原弘様(中46)、筆者・吉田(原田)シヅカ(高18)、後列左から成清謙爾様(高13)、高木節子様(高14)

『悲劇と喜劇の初舞台』

高24 酒見和平

私は平成元年より埼玉県鴻巣市に住んでいます。平成27年4月、統一地方選挙の市会議員に立候補しました。立候補を決めた時の状況では当選できると思えたのですが見事落選してしまいました。本稿は、これまでの人生で初めての珍しい経験(皆さんに知ってもらおうと(人からも勧められて)、また簡単な記録として残しておこう)と思いいました。

I. 立候補の経緯

1) 唐突な話

普段自治会の活動を共にしている近所に住むTさんから12月21日昼過ぎに電話

があった。

「相談が有るけど時間を取れませんか？」と。

大体、相談ということにはろくなことがないのでためらったが、むげに断ることも出来ないのでは会うことにした。ちょうど電話を受けた時は年賀状を書いていたが、それには60歳定年後の再雇用であと5年大成建設(株)で働きますと書いていたので、結果的には嘘をついたことになってしまった。

Tさんに会ったら、「実は前回の市会議員選挙でトップ当選したO議員が今回県議選に出る。後援会でその市会議員の後釜をさがしている。いろいろ検討したが酒見さん以外にはいない。」と言われた。

ええっ、なんで俺がとは思ったが、お前しかいないと持ち上げられ、つい調子に乗ってしまった。

市会議員とかの柄でもないけど、冷やかし半分O議員に話だけでも聞いてみるかと思った。

そして12月23日にTさんと前日紹介されたO議員の後援会副会長のYさんの、二人に連れられてO議員の事務所に行き、私が後任として立候補してもいいと、O議員の了解を得た。なんてこつた〜と思いつつも、あれよあれよという間に話が進んでしまった。

しかし私自身は会社や、家族などの了解を得る必要もあり、色々調整もあるので市議員に立候補するかどうかは簡単には返事が出来ないと考え、正式な返事は1月5日にする約束をした。

私にとつては白羽の矢が立ったというよりも、突然槍で尻を突つかれたという感じであった。

2) 決断

12月24日に会社に出たら人事担当者が、65歳までの再雇用のための書類に押しつけてくれと言ってきた。私は一年ほど前に、65歳まで働くとして一度書類を提出しているはずだけど、と言ったら、途中で気が変わる人もいるので最終確認に来た、とのことであった。私が正月休み明けまで待つてくれと言った時、人事担当者、まさか私がその気が変わる人とは思ってもしなかったようで、とてもびっくりしていた。

市議選の話があと3日遅く来るか人事の最終確認が3日早かったら、既に雇用延長の再確認が終わっていたことになるので、選挙立候補に悩む余地もなかったと思い、何かしら未知の世界にチャレンジしてみたらと言われたみたいで、その時運命を感じた。

年末年始休暇の間、家族や親戚、自治会の人達、大学同期、埼玉県知事夫人(伝習館同級生)、埼玉県知事(夫人を紹介して)、知り合いの現職市議員等に相談した。大学同期の親友Aにはこそっと相談したつもりだったが、Aは同期の他に上下数学年の主だった同窓生に広めてしまったのには閉口してしまった。

同期の意見に限って言えば、お前が市議員になったら税金泥棒になるからやめろとか、政治でちゃんと世の中の為になるには最低20年かかるから止めろとか、のほすんとか、俺だったらやらな

いねという冷静な反対意見がほとんどで、唯一、地元のじいさん達をたぶらかせるのはなかなかできることではないので、それができたくらいならきつと市会議員もできるんじゃない? という肯定的意見が1つだけあった。

基本的には反対意見ばかりだったが、反対されるとますますやりたくなくなるのが人の常である。

そこで大学同期には「みんなが反対するので俺は選挙に出る」と宣言した。宣言はしたものの、本当は自分を奮い立たせたかったのが心情である。ま、前回市議選でトップ当選したO議員の半分くらいの票を回してもらったら当選するし、O議員と異なるエリアの私の票もいくらかはとれると踏んで、当選は確実だと思つたのだが。

年末までは迷いに迷って眠れない日が続いた。呆れた顔をされて好きなようにすれば、と投げ出された格好だが家族の一応の了承も得たつもりで、12月31日までは市議会議員に出馬すると決心した。

II. 退職・後援会活動

平成27年の仕事始めの1月5日は会社にどう切り出すかドキドキの出勤となった。

会社の主だった人達と神社で安全祈願を済ませ、社内で年始の挨拶回りをし、一段落したところで上司に話しかけた。すると私の顔が引きつっていたからか、上司は「事故?」と聞いてきた。会社に

すれば事故みたいなものか……と思いつつ、「プライベートな話です。」と言って上司を会議室まで引き込んだ。

「実は……というところで、申し訳ありませんが会社を辞めさせて頂きたく宜しくお願いします。」

「え、いや、それは困る。」

最初の上司の反応は厳しい感じであったが、色々説明したら渋々ながら納得してくれた。その後今後の対策について数回話し合ったが、急な退職の話で後任が見つからず結局3月末まで働くことになってしまった。私としては2月末が定年だったので、そこで辞めたかったのだ。選挙の投票日が4月26日のため、政治活動が選挙前約1ヶ月弱しかフルに活動できなくなってしまうことも、後で考えると、敗因の一つと思う。

私の後援会のTさんとYさんは私が会社で仕事をしている間にも、朝7時から夜7時近くまで休みなく毎日政治活動の準備をしてくれていた。政治活動団体「さけみ和平後援会」を県に申請したり、政治活動の作戦を練ったり、リーフレットを編集したり、政治活動地域を検討したり、チラシを印刷して折り曲げたり、ポスティングしたり、ポスター案を作ったり、選挙カーの看板のデザインをしたり……と、時間はいくらあっても足りなかった。

TさんもYさんもW大学出身で、社長経験者でもあるので企画力、実行力抜群であったので何とか準備をこなせていたのではないかと思つた。後援会のTさんとYさんには、いつ会社を辞められる

のか？と追及されながら、私は1月3月は仕事と政治活動の2足のワラジ状態で、3月になって、やっと後任が決まり半分くらいは会社を休めるようになった。

Ⅲ. 選挙活動

1) 駅立ち

1月3月は会社の仕事、退職のための準備、政治活動等でもつらく忙しい状況であった。

2月9日からは毎朝始発電車(5:23)に合わせて駅立ち(挨拶、リーフレット配り)をして、7時半頃に選挙用の赤ネクタイをサラリーマンネクタイに変えて会社に行く生活が2ヶ月ほど続いた。

(政治活動するときのネクタイはなぜ赤でないといけないのかと思っていたら、意見などを訴える時は色彩心理学上、赤が一番効果的ということを知った。)

当初、駅立ちなんか私には絶対出来ないと思いき、初めの3日間くらいはTさんと一緒に立ってもらった。しかし最初はとも嫌だった駅立ちが、慣れてくると途中からは難行苦行を達成したような快感となつてしまったのは不思議である。

ただ寒さのため手が痛くなるのには閉口した。同時期に選挙が行われる県議選の応援でいつも駅立ちしている国会議員秘書に、手は冷たくないですか？と聞いたら、もう慣れましたと言われ、まだまだ私は甘いと思つた。

駅立ちは全市会議員候補の中では断ト

ツに真面目にやつた。他に駅立ちしていたのはほとんどが県議選候補で、私を県議選に立候補しているのではないかと勘違いする人もいた。おかげで県会議員立候補者(4人)とは全員友達になつた。

2) 後援会事務所

後援会事務所は、自宅から50m位の所にある駅前通りに面した安アパートの1階に設置した。

事務所にはYさんTさんはほぼ常駐、O議員の後援会員で近所のHさん、私が趣味でやっているソフトバレーボール仲間のKさん、Eさん、テニス仲間のNさん、Uさん、OYさん、自治会役員仲間のKWさん、ONさん、体育祭仲間のMさんらが会社の休日や夜に顔を出して手伝ってくれた。チラシの折込はMさんの高校生のお嬢さんまでにも手伝わってもらつた。また駅前で花屋をやっているYJさんが毎日生花を持ってきてくれてとても綺麗で華やかな事務所となつた。

YJさんは娘婿の親父さんで、花のほかに寄付金、お酒、お菓子色々経済的に支援してくれ、顔も広く多くの票を集めてくれた。あるときふらつと事務所に来て、胸のポケットから100万円を取り出して渡された時はびっくりした。さすがに100万円は受け取れなかつた。

(尚、取支報告書に記載すれば、資金援助を受けることは選挙法上なんの問題もありません。)

中学の同級生達と高校の同級生達からはそれぞれ連名で生花を送ってもらつたり、大学の同期からもワインやお酒が届けられたりしてとても勇気付けられた。

大学の同期のOMはわざわざ福岡から応援に来てくれた。

その他、多くの人からの差し入れがあつたが、中には全く知らない人からのものもあり、驚いた。

また多数の国会議員や県知事からも為書きが届き、壁が為書きだらけとなつた。

その中では中学の同級生の奥さんが書いてくれた手書きの物が心がこもつていて一番有難いと思つた。

(為書き↓選挙の際の応援用のポスター、楳ビラ。殆どが必勝等の文字を印刷)

選挙カーも1週間借り、一緒に乗ってくれたウグイス嬢も延べ19人と多くの若い女性が手伝ってくれた。交代で選挙カーを運転してくれた人も述べ8人となつた。選挙期間は平日であつたので運転手とウグイス嬢をやってくれる人の確保には苦労した。特に運転手は駅前で花屋の2代目として働いている娘婿が手伝ってくれなければ成り立たなかつた。娘婿はその他に夜遅くまでリーフレットを配つたりして、とても有難かつた。

家内や娘二人も積極的に手伝ってくれたのもとても助かつた。家内は一番面倒くさい後援会事務所の管理、会計一切を仕切ってくれた。

次女はウグイス嬢なんか絶対やらないと言つていたが、一度やったらマイクを離さなくなつてしまつたのには笑つてしまつた。後援会は交友関係の集大成とも言つてよく多くの人の出入りがあつた。

Ⅳ. 選挙活動・結果・分析

1) 活動

駅立ち等の政治活動と選挙活動期間中に主にしたことを数字で表すと次のようになる。

リーフレット(自己紹介・政策等) 20,000枚、チラシ(政策等) 50,000枚配布。

公示後、市内各所にあるポスター掲示板200か所近くのポスター張りには後援会の人達が手分けして3時間くらいで貼り終えてくれた。

K駅、KK駅、H駅での駅立ち平均2時間半を約40回、約3,250軒に挨拶(選挙違反にならない範囲で)、選挙活動1週間の間に握手750人。

選挙の最終日は駅前で、地元N国会議員、O市会議員、私の順で街頭演説をした。まさか国会議員が応援演説をしてくれるとは思つてもみながつたので有難かつたし、嬉しかつた。元気なまちづくり、社会福祉の強化、スポーツや芸術の振興などを訴えたが、そもそも私が街頭演説をするなんて思つてもみながつた。ただ残念ながら聴衆のほとんどは後援会関係の人達であつた。

選挙活動期間中に人員面で活動ができてなくて崩壊している選挙事務所もある中、私の選挙事務所は明るく、みんな楽しみながらできたので、雰囲気的には絶対当選だと確信していた。

2) 結果

得票は792票しかなく約280票不

足で落選してしまった。(定員26名で立候補者33名中、私は30番目、ブービー賞逃し)

市議員立候補の中では一番真面目に活動したと思うが、選挙活動期間が短く、また地元での実績も少なかったのが敗因かと。今まで自民党を積極的に応援していたわけでも無いのに、自民党の〇元市議員の後任ということで、自民系無所属として出馬した。結果的に県議選の政党間の争いのあおりを受け、〇議員が大つばらに私を応援できなくなり、〇議員の票があまり回ってこなくなりました。思ったと思う。〇議員も県議選立候補当初は楽勝の感じであったが、途中から対抗馬への国会議員、県知事、市長等の応援が強まり、結局落選してしまった。政治の世界はちよつとしたことで流れが大きく変わると思った。

落選したあと1ヶ月くらいは落胆の日々であったが、今は落選して良かったと思っている(後述)。

3) 分析

① 選挙に立候補して分かったこと

① K市は面積が広い方の市ではないが、実際に回ってみるとずいぶん広い。

② 現職が強い。(公職選挙法は現職を有利にするための法律である。)

③ 市議員レベルの選挙は地元出身者／地元に着した仕事をしている人がやはり有利で強い(地元小中高出身、PTA、商工会議所所属、市職員等)。

④ 主義主張は明確にすべきである(あ

る問題について地元の意見が真つ二つに分かれていたが、両方の票を取りたいと思つて、私の意見を曖昧にしていたため、両方の票が逃げたのではと思う)。

⑤ 政治活動、選挙活動では普通にやっていることが選挙違反になるらしい。

(何が良くて何が悪いのかさっぱり解らないので、選挙違反になるかならないかの微妙なことは〇議員の後援会のメンバーで、選挙違反者を50人以上捕まえたことがある警察OBのDさんに逐一確認した。)

〔選挙違反例〕

後援会事務所で来客にお茶を出す際にペットボトルのまま出す、お茶菓子を袋のまま出す。選挙地区の有権者に年賀状を出す。政治活動中のリーフレットに「討議資料」の記載がない。政治活動中に名前を書いたたすきを着用する(たすきを着用したいときは「本人」や「本人の妻」とか書く)。選挙活動中にリーフレットを配る(政治活動中はOK)。選挙活動を一日中無償で応援してくれる人に弁当などを出す。無償で応援してくれた人達と開く選挙後の慰労会すら会費制にしないと違反になる。名前を書いたのぼりを立てて自転車で走る。後援会事務所の窓ガラスに外から見えるように選挙ポスターを貼る。(自転車とポスターの件では、今回実際に選管から注意・指摘を受けた)

V. 総括

1) 立候補して良くなかったこと

① 落選してしまった。(結構落ち込んだ。)

② 費用がネット約250万円もかかった。(家内曰く、ドブに捨てたようなもの。トホホ。尚、最少規定得票数獲得により、供託金30万円は没収されず返還され、ポスター代等60万円位が支給された。)

③ 選挙後、人と道ですれ違う時、こっちは知らなくても向こうが知っているかもしれないので、挨拶した方が良いかどうか分らない。

2) 立候補して良かったこと

① 市議員選挙立候補という稀有な経験ができた。

② 家族、親戚の絆が深まった。口もきいてくれなかった娘達が一生涯懸命応援してくれて、少しは口をきいてくれるようになった。

③ 娘婚の親父さん(YJさん)と月2回位、軽く酒を酌み交わすようになった。娘婚とも仲良くなれた。

④ 市内で信頼できる人が数人できた。落選後、これからの仕事を色々比較検討することができて、新しい世界が開けた(転職)。

⑤ 多くの国会議員、県議員、市議員と知り合いになれた(夏祭りやソフトラレー、テニスの試合の時は議員さん達が私のところにわざわざ挨拶に来てくれる……もちろん票集め

のためとは思いますが)。

《最後に》

長年勤めた会社を辞めて、市議員に立候補し、結果落選したこと(悲劇)は大変残念ですが、なかなかできない貴重な経験(喜劇)ができました。自分の人生的一幕で目標達成は成りませんでした。失ったものより得たものの方が多かった。今では結果に満足しています。このエッセイにしても、落選したからこそ「笑い話」として会報に載せて頂けるのであって、当選していたら無理でしょうし、そもそも書くことにはならなかったと思います。

でも、顔も名前も売れただろうし、機会があれば見果てぬ夢にもう一度……? いや、ない。ない。ほんなこつなかですばい。(了)

『青春のパイプライン』
(完結)
《映画篇 III 「ベン・ハー」》
高18 福山博彰

さて今回は映画篇の最終、本シリーズの完結となる超大作「ベン・ハー」の話

です。

最後の仮想インタビュアーは超人気女子アナの夏目三久さんをお迎えしました。

「こんにちは、ずっと熱烈なファンでしたので、やっとお迎えできて大変嬉しいです！」

「初めまして、よろしくお願いを致します。でも、滝クリさんにも内田恭子さんにもそんなことをおっしゃっていたような気がします。」

「えー、それは……モノには順序というものがありまして……この映画のお話し相手には魅惑的な夏目さんを決めておりました……決して3番目のお気に入りという訳ではなく、日本には最後に出てくるものが一番重要という文化もありますので……私にとつて貴女は特別で本命です。」

光源氏も言ってますでしょ、綺麗な花は一輪でも美しい、まして数が増えればもっと美しいと。」

「まあまあ、お口がお上手ですこと。話半分どころか、どこまで信用して良いのやら……。」

長くてややこしいことになりそうですから、この話は後にして、まず本題からはいりましょう。映画の解説を始めてください。

〈第一章〉

「はい、それではまず概要から。この映画の製作は米国で6年掛かりで1959年に完成、現在のデジタル以前の70mmフ

イルムの大画面、超大作・スペクタクル

映画全盛期の作品として、アカデミー賞11部門を獲得、この記録は未だ史上最多部門受賞作品の一つです。その後、タイタニックとロード・オブ・ザ・リングが同数を受賞しています。映画本編上映に入る前に数分の堂々たる序曲が流れ、上映時間も当時平均の2倍という異常に長い212分もあるので、途中にトイレタイムの休憩がありました。実状としては

映写機にそんな長いフィルムをセットできなかつたため2本に分割する必要があったのです。これはウエスト・サイド・ストーリーでも同じでした。」

「もう58年も前になるんですね、いかにも古いと言えば古い、アラ還の昔ですね。」

「そうですね、確かに映画も古いんですが、調べたら小説も1880年にアメリカで出版されています。」

驚いたことに、舞台上演も長く行われていて人気がありました。最初の映画化は1907年、その次は1925年にいづれも無声映画で作られているのです。この1959年版ベン・ハーのビデオとDVDを持っていますが、DVDの付録に1925年版が付いているので観ましたら、これが思ったよりも優れモノで良くできています。最近でも2010年頃にTV用でしょうか、作られたものがありますし、近い内に新たにCGを駆使して作られた同名映画の公開が予定されているようです。」

「そんなに昔から何回も製作されている有名な映画とは知りませんでした。」

「小学生の頃に、新聞の広告に上映時間が3時間半と書いてあるのを見て驚きましたが、更に驚いたことがありました。それは編集する前の撮影フィルムを全部映写すると百数十時間、1週間もかかるということでした。えっ、映画ってそういうって作るものなの？」

「と、思っ、映画製作自体にも興味を持つきっかけとなったのがこの映画です。編集、脚本、フレコ、音楽、効果音の録音、撮影方法、衣装、セット、ロケ、メイキャップだとか、監督やプロデューサーとかの役割も少しだけ理解できました。映画って監督が作るもんじゃないんですか？」

「あらあら、監督がプロデューサー志望だったんですか？」

「いやいや、それ以上に音楽をやりたいだったので（この辺の話は数回前のエッセイ、音楽授業篇をご参照ください）」

「そうですね、それは心残りというかが整わなくて残念でしたね。それで、この映画のストーリーはどういったものなんでしょうか。」

「副題に、キリストの物語とあるように、主人公のジユダ・ベン・ハーの奇々な運命を通じて、キリストの生死とその時代の支配者ローマの圧政に苦しむ被支配者階級、ユダヤの民の様子が描かれています。」

映画の冒頭で、いかにも史劇ということを思わせる、低音の解説者の時代背景の朗読と伴に古めかしい地図が映し出されます。その内遠くに夜のベツレエムが

出て来て何だろうと思っていると、救世主が出現するという神からのお告げに従い、3人の王様が星の導きにより天空から光が降り注ぐ場所に集い、その粗末な馬小屋でキリストが誕生するシーンになり、ああそうかと納得です。

その後には映画の題名や主な出演俳優、スタッフの名前が出てきます。

物語としては非常に長いので、簡略・割愛しますと、ユダヤの富裕階級、豪族の息子であるベン・ハーは、ローマ軍総督が馬に乗って家の近くを通る時に偶々屋敷の瓦が落ちて落馬し重傷を負ったため、暗殺を謀った嫌疑で捕らえられてしまいます。義兄弟の契りを交した、今やローマ軍の司令官となった旧友のメッサラに事故だと無実を訴えますが、ユダヤ人支配政策についてベン・ハーとは違う強硬意見を持つ彼の助力が得られず、逆に妬みと陰謀により、家族は牢獄へ、本人は奴隷となりガレー船（沢山の奴隷がオールを漕ぐ木造の軍艦）の漕ぎ手に身を落とされてしまいます。しかし、復讐心が彼をドン底から諦めさせず、海上の戦闘時に総司令官を救出し、戦いに敗れたと思つて自害しようとした彼を思いとどまらせ、実際には戦いは勝利だったため、彼に感謝され殊勲を挙げたことになり、運命が上向きになり、その後彼の養子に迎えられる。

4頭立て二輪戦車競走の騎手になったベン・ハーは、宿敵メッサラと死闘の末、勝利者となり英雄として榮譽を勝ち取ります。（途中は省略）最後には家族を探し当て、その結果、キリストの偉大

さを知ることとなります。若い時によく読んだ、エドモン・ダンテスⅡモンテ・クリスト伯爵（巖窟王）ばりの数奇な人生ですね。日本人の好きな、散々艱難辛苦の末に遂には勝利・幸福を勝ち取り歓喜へと向かう、ベートーベンの第九、シンドレラ、高校野球などと同じパターンでしょうか。」

〈第2章〉

―なるほど、勸善懲惡、起承転結がはっきりしている、読む側、観る側も分かり易いですし、安心ですね。

「監督のウイリアム・ワイラーは『ローマの休日』や『大いなる西部』などの作品でも有名な巨匠で、1925年版の時にスタッフとして参加していたそうです。この映画でアカデミー賞監督賞獲得は3回目になりました。」

音楽はイタリアのクラシック音楽の作曲家、ミクロス・ローザが担当し、その壮大で豪壮な曲想は素晴らしい響きで聴く人を魅了します。

撮影も殆どが実写で、CGは極一部、例えば競技場の背景とかに限られているそうです。

ベン・ハーが投げる槍が飛ぶシーンはちょっとさもなく、飛ぶ軌跡がおかしいのでワイヤーかなんかで操作しているのではないかと。海上戦闘の軍艦シーンは模型だとすぐ分かります。この辺は仕方ないのかも。円谷監督なんか相談しなかったのかなあ。」

―確かに、最近のCGで作った映画は迫力がありますが、何かゲーム感覚的で現

実感・真実味がないように思えます。スター・ウォーズの空中戦なんかまさにゲームで、やられたらおしまいなんだよ！という危機感がありません。失敗すればやり直しが効くとも……？ 現実は何え。

「そうですね。現実の人生はやり直しが効かない……とまでは言い過ぎですけども。」

で、最近の映画は出演者、スタッフ、製作に関与した人の名前が映画の最後に出てきますが、この映画の頃は殆どが最初でした。この映画も荒野の決闘も最初ですが、ウエスト・サイドは最後。」

―最初か最後はともかく、最近はやたら長くて詳し過ぎるのが多くないですか？ どうしてなのかしら？

「その通りですね。製作者責任とか個人権利の尊重とか著作権とかいがあるのかも知れませんが。ありとあらゆるスタッフの名前を出すためクレジットが余りに長くなりすぎて、音楽も尻切れトンボになり、別の曲に変わるといふアホか、と思うこともしばしばあります。」

例えば、主演女優の衣装・ヘア・化粧などの担当、送迎車の運転手、ケイタリング（食事の配送）やらなんやら、映画製作に直接関与しない人の名前などもやたら流されてうんざりです。いっそ、洋服の洗濯人やスタジオや部屋の掃除人まで載せたらと毒づいています。」

―そういう人は生活に関与している人で、映画製作に直接関与しているスタッフとはちょっと言えないのではないかと。

「そうですね。気分直しに、このクレジットに關して、少し前に面白い表現を見つけてまわしてね。」

―あら、なんですか？ 聞いてよ、聞いてよって顔をしていますが。

「えへん、それはですねえ、関与内容にベスト・ボーイ・コンストラクション・グリップス」等の表示が出てくるんですよ。一体これは何のコツ？ と思つて調べたら……なるほど、ベスト・ボーイってえのは副班長みたいな役割で、コンストラクション・グリップスとかリギング・グリップスとかいのは、いわゆる大道具／撮影／照明などを準備するセツト係の呼称みたいです。」

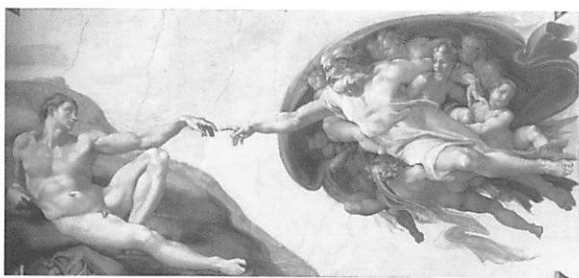
学校時代はグッド・アット・スクール、会社に入りベター・ポジションを目指し、今はベスト・ボーイなんて小話は面白くないですか？ ん？ 何を言ってるんだか？ ……ですか？

―……………

〈第3章〉

「オヤジギャグの扱いでしたか、失礼。襟を正して……この映画のクレジットのバックには、宗教的で重厚で厳かな雰囲気を出すためでしょうか、バチカンのシステイナ礼拝堂にあ

るミケランジェロの『アダムの創造』の絵が使われています。」



ミケランジェロ「アダムの創造」(システイナ礼拝堂)

るミケランジェロの『アダムの創造』の絵が使われています。」

この絵に關して中学校の当時（昭和30年代終わり頃）の美術の先生が言うことには……これは神の指先から最初の人間であるアダムの指先に生命が与えられようとしている場面を描いていますが、どうしてアダムにおヘソがあるんでしょうね？ 最初の人間ということでは、誰からも生まれていないということでしょう、なのにね。そもそも人間が未だ存在しないのに、一体誰がこの場面を見て、絵を描いたのでしょね。こういう風に芸術を余りに論理的に考えると、本来は根幹ではない方向に行ってしまうことが多いものです、……だって。なるほど、ま、映画だってそうでしょう、海の上に暴風雨で今にも溺れそうな人がいる場面、撮ってるお前は一体何なんだって？！

私も考えるに、いやいや、それは認識論の世界の話であり、人間が生まれる前から地球や星は存在していたのだ、これを唯物論と言うことを知る機会があったのでした。恋愛も認識論上で発展するものにて、唯物論上で存在しても私の愛は認識されない……故に片思い。」

―すみません、何だか論点が減茶苦茶になつてるようなので、お止めください。そんなに難しく考えると、人生ややこしいですよ。片思いでもいいではないですか、どうしようもないのですから。

「おや、随分とクールなご発言なこと（キョトン）。」

先ほどの中学校の先生の話に關して、相当後になつてから知ったのですが、神

を描いてる右の部分は実は人間の脳にそっくりなんだそうです。神から垂れ下がる緑色の帯みたいなもの、あれはヘソの緒を表しているのだ、だからアダムにヘソがあつていい、とかの諸説もあるそうで……。」

「芸術や恋愛を論理で考えてもムダでことですね。止めましょ。」

「はい、ついでに雑談。歌の歌詞なんか論理的に考えてはいけない典型でしょうね。カラスなぜなくの」という七つの子は7歳の子なのか7匹の子なのかとか、月の砂漠をはるばると2人なんかで旅したら遭難しちゃうよだとか、

「真綿色したシクラメンほど、すがしいものはない」って、すがしいなんて言葉あつた？ とか、雪にわりはないじゃなしって、一体どっちなんだよとか、静けさや岩にしみいるセミの声のセミってなにセミ？ クマゼミは生育地域は西日本までだから、アブラゼミかミンミンゼミである……とかいう論争が明治か大正時代にあつたそうです。ややこしく考える人が多過ぎます。」

「あはは、面白いですねえ、拘る人はトコトン拘りますからね。最近ネットなんかでも、自分の知識や着眼点をひけらかして褒めて貰いたいの目的なのか、その類のコメント・意見・ツイターがやたらはびこっています。しかも匿名だから書きたい放題で無責任な正論、全体を考えない狭量な意見、建設的な提案がない批判、他人への妬みと非難ばかり。」

「そうですね、目に余りますね。貴女もその面では一時、大変なバッシングを受

けていましたね。あ、触れてはいけなかつた？」

「え、いいですよ。元には戻せませんが、もう開き直って忘れるしかありませんから。」

「あらア、強いですね。その強さも大好きです。貴女の経験、売れっ子の高みからどん底に一度沈み、そしてそこからまた這い上がってきて売れっ子へと返り咲いた精神力、努力には敬意を表します。ベン・ハーの人生・運命とどこか似てますね。今回このエッセイに私のお相手として登場頂いたのは、実は貴女選択の理由はそこにあります。」

〈第4章〉

「はあ、それが言いたかつたのですか、ありがとうございます。さア、さっきの映画本来の話に戻りましょう。この映画のどこころはどんなところにあるのですか？」

「はい、色々ありますが、名場面としてはアクシヨンの場面が2つ、そして、ああそうだったのか、という場面が一つあります。」

最初のアクシヨンのシーンは、奴隸が漕ぎ手のガレー船（木造の大型軍艦）での場面です。

3年という異常に長く漕ぎ手として生き永らえているフォーティワン41の番号を付けられたベン・ハーが、ボート競技で言うコックスの、ここでは兵士が叩く金槌のスピードに合わせて、復讐の怒りと憎悪に満ちた表情で必死にオールを漕ぐ場面が秀逸です。ここではC・ヘス

トンがプロレスラーかアメフト選手並みの肉体美を披露しています。

2つ目のアクシヨンは一番有名で、4頭立の二輪戦車競走の場面です。これはCGなし、スタントマンなしでヘストンがガチの演技で撮影も躍動感があつて素晴らしい、迫力満点で見ていてハラハラして怖いですが、息のみです。実際にヘストンが戦車から落ちそうになり、それをこらえた反動で嫌つというほど戦車の前に体をぶつけてしまうシーンがありますが、あれはあばら骨なんか折つたんじゃないですかねえ、観たらびっくりしますよ、圧巻のシークエンス（一続きの場面）です。

思い起こすに、1939年製作のかのジョン・フォード監督の『駅馬車』でもジョン・ウェインが暴走する6頭立て馬車から馬と馬の間に3回も飛び降り、もう少して落ちそうになります。この上がつて先頭の馬に跨るといふ離れ業をやつてのけています。これも体を張つたすごく危うい場面でした。

最近では『ミッシェル・インポッシブル』でトム・クルーズが飛び立とうとする飛行機の外側に掴まりますが、飛行機はそのまま速度を上げて上昇して行くというゾツとするアクシヨン・シーンがありました……一体、彼らは何億円の生命保険金を掛けているのでしょうか？」

「ええ、関心はそっちですか!?」
「そう言えば、10年前に香港映画のアクシヨンで、主演の藤原紀香が超高層ビルの屋上辺りから吊るしてあるガラス板に飛び乗るといふ、ぞろろとずろろとするシー

ンがありました。ええと……DVDありますのでご覧になりますか？」

「いいえ、致しません。まっぴら結構です。次に行ってください。」

「へえへえ……ああそうだったのか、という運命のヒモが繋がる場面の話に行きます。」

ベン・ハーが奴隸の身となり、鎖に繋がれて長い道中を兵士に連れられて行く途中、喉が死ぬほど渴いて倒れてしまします。その時、誰かが彼に優しく水を飲ませてくれます。その奴隸には水をやるなど威張つていた屈強な兵士が、その水を与えた人に近づき、叱責し追い払おうとします。

しかし、すつくと立ち上がった細身で長身の髭を生やした長髪の青年と思われる人の風貌に兵士は圧倒され、気まずくなり引き下がる場面があります。青年は後ろ姿のみしか見えず、観客は兵士の表情からしか、その青年の表情を推測することができません。兵士はなかなかの演技でした。

青年はさぞや慈悲深い澄んだ瞳で穏やかだが威厳に満ちた気高い顔をしていたのでしよう。

無言で放つオーラを感じさせる場面でした。

その10年後位でしょうか、ベン・ハーは、兵士に下突かれ傷つきながら重い十字架を背負われ、ゴルゴダの丘に向かって石段を死にそうになつて登らされていく人に遭遇します。

そして、こう呟きます……アイ・ノウ・デイス・マン……」

その人が疲労困憊で倒れ跨るの見て、ベン・ハーは思わずその人のもとに駆け寄り、水を差しだします。そう、自分が水を与えている彼こそが、巡り巡ってかつて自分が死にそうなときに水を恵んでくれた人だったのです。観客は既にこれがイエス・キリストだということを知っていますが、ベン・ハーはこの時までこの人の名前も行いも、なぜ丘の上で磔にしなければならぬのかは分かりませんでした。

「はあ、なかなか感動的なシーンですね。ほろつとしようです。」

「その後、キリストは天国に召され、大雨が降り雷鳴が轟く中、ライ病だった家族が突然治ってしまうという場面が変わります。これはキリストのお陰かと思わせるシーンなので、仏教系? の日本人にはちよつとピンとこない人が多かったかも知れません。ま、科学的に考えると、雷がながしか人体に良い影響を与えるイオンを発したのかも。雷の多い年はコメが豊作という言い伝えもあり、稲妻という通り、雷が稲に何らかの良い化学的エネルギーを与えているのかもです。かもかも、ばかりで恐縮。」

〈第5章〉

「アカデミー賞自体の話をししましょうか。このアカデミー賞というのは全世界的に超有名な賞ですが、実はアメリカの極一部、映画芸術科学アカデミーという約6千人の会員が決めているものによらず、1年以内にロスアンジェルズ地区で公開された映画のみを対象とする等の極

めて狭義な規定があります。年間の対象本数は一体何本あるのでしょうかね? そもそも6千人全員が対象となる映画を全部観ているのかしら? という疑問もあります。選考システム・過程がよく分かりません。」

「え、そうなのですか!? ノーベル賞みたいに全世界的な視野から各部門の専門家が公平感と使命感を持って決めているのではないのですか!? グローバル・スタンダードと言うと普通何か全世界的に決められた標準だと思えますが、実は米国だけのやり方が多いのと同じですね。」

「そうなんです。ですからアカデミー賞受賞作品といつても、必ずしも映画の完成度や芸術性、観客に訴える力などで評価された訳ではありません。勢い、お金を掛けた、大衆を魅了する娯楽大作に受賞が集中するのは無理からぬところですよ。因みに各部門で賞を獲つても賞金はなし、オスカー像と呼ばれる人体型の金メッキ像が貰えるだけで、名声と名誉が得られるだけです。」

でもその商業的影響力と興行成績、その後の映画製作には多大なものがありますものね。

また賞が獲得できるかどうかについては色々な噂があります。その一つが、受賞の対象となる出演者、製作スタッフとかの関係者がユダヤ系でないか、という言い伝えがあります。因みに「ベン・ハー」の映画の中にはユダヤの象徴である六芒星（正三角形が相対して重なっている紋章、ダビデの星）が数シーンで出てきます。普通は全く気づきません。

それから、これはユダヤ系説よりもっと有力な噂というか、アカデミー賞にまつわる言い伝え、公然の秘密となっていることが一つありましてね……。」

「え、そんなのあるんですか、もったいぶらないで教えてください。それは一体なんですか? W A S Pでないかダメとか? (W H ホワイト/白人、A S 人種的にアングロ・サクソン系、P 宗教はプロテスタント) 」

「さすがに良く勉強していらつしやる、よくご存じですね。W A S Pは米国で政治家、官僚、民間企業等の上層部になるには暗黙に求められる要件のようですが、残念ながらここでの答えとしてはハズレです。アカデミー賞では、その映画の関係者が実はフリー・メイソン会員であることが賞を獲るのに重要な要素である、ということらしいです。近年賞を獲つた監督などもそうらしいです。」

「またまた、え!? ですが、あの秘密結社に所属している必要があると!? 」

「はい、日本ではかなり誤解されているというか、秘密結社などという言い方にも何かヤクザ組織か、怪しい宗教団体の怖い部分があるように一般には流布されていますが、実態は違うようですよ。」

「え、おじさま、よくご存じのようですね、会員なのですか? 」

「いいえ、知り合いのある先輩、サラリーマンを退職した極普通の人ですが、この人が会員で、一時興味があると申し上げたら私なら推薦できると言ってくれたので、その気になりましたが、ハタと考えて見まわしたところ、友愛だとかを旗

印にしていた当時のある日本の首相が会員であることを知り、彼のワケの分からない政策や言動に失望して、止めました。今でも彼はおかしいです。」

「あああら、そんなことがあったんですか。へえ、ついでお聞きしますが、会員になれる資格とか条件とかはあるのですか? 」

「聞いたところによると、一応基本的には人格、社会的地位、財産が備わっている3人の会員から推薦を受ける必要があるそうです。尚、新会員を勧誘してはならないそうです。」

「へえ、そういう人が身近なところにいらつしやるものなのですね。」

〈第6章〉

「またまた脱線しました。閑話休題。」

興行成績などの話になりますが、この映画の製作費は当時150万ドル（当時@360円で54億円）、全世界興行収入が74万ドル（同267億円）だそうです。現在、現在の価値に換算すると、十数倍としてコスト800億円、収入4000億円ですから桁違いのスケールですよ。また因みにですが、プロ野球初の天覧試合、昭和天皇の前で長嶋選手があのサヨナラ・ホームランを打って一層記憶に残る選手になった記念の試合ですが、あれが1959年6月なんです……。」

「え? なんて急に天覧試合の話なんか因みにでも出てくるのかしら? 」

「……と思うでしょう……へへ、実は1960年3月30日、昭和天皇が初めて市中でご覧になった映画、即ちこの映画が

初の天覧上映だそうです。C・ヘストン夫妻も同席していたと書いてあります。」へえ、そうなんですか、知らなかったわ。今日は知らないことばかりで驚きです。この頃から天皇も人間として対外活動されていたということですね。

「はい、それでは最後の締めに入りヤシヨウカ。」

最近の人なら、タイタニック、スター・ウォーズ、007、インディ・ジョーンズ、ロード・オブ・ザ・リング、ミッション・インポッシブル、ハリリー・ポッター、ジュラシック・パーク等々、面白くて感動した映画が多々あると思います。もちろん私も上記全て好きですし、日本映画も含めて好きで観てきました。が、やはり若い時代、青春の瑞々しい感性と吸収力のある時代に観た映画、ミュージカル映画、西部劇が力強く印象に残っています。

この『青春のバイブライズ』シリーズも、高校時代の片思いの女生徒の修学旅行での失踪事件の話に始まり、40数年後の還暦同窓会での再会の話（2回）、印象的な授業・先生の話（3回）、そして生涯で好きな洋画3本の話（5回）と連載してきました。

続きを書くとしたら、まだまだ音楽、旅行・ドライブ、長年勤務したシンガポールの話など、タネは尽きませんが、高校時代の『青春』に関したものは今回でお開きと致します。

夏目さん、本日は誠にありがとうございました。

それでは同窓会の読者の皆様、10年間長々とお読み頂き、お付き合い頂き、どうもありがとうございます。ごきげんよう、さようなら。」

「あらッ、いつものお誘いとか恋愛トークは今回はないんですか。」

「え、ないと寂しいですか。いや、ねえ、今回は通常2回分を無理して1回に収めましたので、これ以上は長くなり過ぎますし……それに恋愛トークにしても、いくら本音で話して理論的には合っても、もうこの年では難しいですし……それ以前に、最初からダメなものダメだと分かりますし……いくら情熱的で誠実で本気であっても、お相手がその気でないとなんか成就しないものですからね……悲しいですね。」

片思いに始まり、片思いに終わる『青春』でした。サイナラ、サイナラ、サイナラ……」

【完】



わが望郷風物詩

高5 阿津坂林太郎

水郷柳川、川下り
岸辺に柳、朝鮮藻
川瀬飛込む掘割は
エースカ（恐い）河童が棲むとかや
嫁入り舟が行き違う
川の流れる行く末は
人生行路さながらか
ドンコ舟上れば、そこは
殿さん館、お花、松涛園
池では野鴨が群れ遊ぶ
土産物はと問われれば
藩御用達、越山餅
海産物なら、テララギ
ウミタケの粕漬けがヨカ

ドンコ、ベニチヨコ、手長エビ
うなぎ延えに泥鰌籠
蒲焼は名代の本吉屋
地物召すなら沖端裏町
六騎料理、夜明け茶屋
六騎訛りが叫び合う
軍艦巻きには有明海苔
有明干潟の潮干狩り
アゲマキ、メカジャ、ミロツ貝
口底、ワラスボ、エ、ガンチヨ（鱒）
鱈五郎捕るには濁スキー
筑紫湯の夕まぐれ
そろ／＼潮が満ちて来て
戻る舟路は追手風

文武両道伝習館
故郷ゆかりの文人は
白秋、長谷健、檀一雄
伝習館武道黄金期
水泳、陸上それぞれに

男も、女も日本一
「へ・へ・ふ・ふ」立石先生
授業風景想い出す
牛しゃん、象さん、緒方先生
我が師の恩は忘れません
白秋道の往き還り
弊衣破帽、高木履
歩く姿は蜜カラ風
あの友この友息災か
ほのかに恋した良かオンゴ
今頃何処にいるのやら
高句麗鴉も知るまいぞ
南は雲仙、南風便り
さげもん廻りで春が来て
夏は水天宮舞舞台
秋は三柱神社オニギエ（お賑会）
冬は昭代八家のホンゲンギヨ
齢八十、望郷の念増すばかり
実に、わが柳川風物詩の如し

朝鮮藻



朝鮮藻

学年だより

高3回生同期会

高3 酒井清行

平成28年8月26日(金)、13時。会場Ⅱがんこ銀座四丁目店

参加者23名(男性16、女性7)

柳川市中町六の相浦本店の会長で同期生の相浦利祐氏がJR有楽町駅前の東京交通會館において、8月21日(日)〜27日(土)の間、柳川の水辺の風景やいろいろな花ばなのパステル画50点の個展を催す機会に便乗して3年ぶりの同期会を開催した。

郷里の柳川や久留米から4名の出席も



あり、元気者揃いで、大きな声で柳川弁が飛び交って、会場は盛り上がった。みんな青春時代の伝習館生に若返った気分になり、一層打ち解け合って、お互いに元気をもらい、言い知れぬ嬉しい気分になることができた。

出席を勧誘するときに、いったん欠席を申し出た後、2、3日して「やっぱ会いたか」、「出るばい」といった、嬉しい感動的なやりとりがあった。幹事冥利につきるとは、こうしたことかと有り難く感受しました。「東京オリンピックまで、いやいやその先の88歳の米寿まで生きしてお祝いの同期会ができるといいね、などと氣勢が上がった。これからの老化を防ぐため、友達と会い語り合っていて、お互いに勇気づけ合い、助け合っていくことがとても大事なことと思っっている。こうしたことの一助になったと総括している。今後の楽しい余生をしっかりとした健康長寿で送って欲しいと祈りつつ別れた。

写真

上段	中段	下段
山下元生	高山久吾	久米ヨシ子
原田俊雄	木村朱水子	井口茂樹
吉田澄人	菅家由紀子	園田麗子
新谷弘之	松竹紀子	石橋雅史
田中穂積	白井ヒロエ	
高巢研三	関雅好	
後藤一彦	富安武美	
高椋重夫	藤木豊子	
松崎美年子	相浦利祐	

高校四回生の集い

「高四会」そして「高志会」へ

高4 荒井健之輔

私たちは高校四回卒であります。伝習館が高等学校になってからの昭和二十五年最初のすなわち第一回の入学生でありました。学年全体の同窓会は「高四会」として柳川の「御花」や「勝島」で開催されていましたが、関東周辺在住者たちは「関東高四会」を結成し、東京に於いて時に相集い交友を続けてきました。渡邊喜亮君が会長として頑張ってくれています。

最近の集いを二・三年分まとめて振り



集合写真 (H26)

返ってみます。

平成二十六年は十月三十一日（金）、場所は「綱町三井倶楽部」で「傘寿記念会」として「関東高四会」を開催いたしました。緑豊かな池泉を配した広大な庭園がここが都心かと思えぬような静寂な環境にあります。集う旧友たち二十八名、歓談と庭園の散策を楽しみました。

二次会はタクシーに分乗して、新橋駅前ビルの中の「九工大鳳龍クラブ」へ。九工大卒の樫島啓之君の世話で借り切りでした。一次会だけでは久しぶりに会った友達同士なかなか語り尽くせぬものです。昔話、近況（体のあちこちが具合が悪い、などなど）、また老いの道の行く先のことなど話は尽きないものであります。三次会に行ったものがあるかどうかは私の知るところではありません。家に帰るのがやっとなという人が多いのですから。

平成二十七年は十月二十二日（木）に場所は前年と同じ「綱町三井倶楽部」で開催いたしました。柳川での全体の「高四会」は会長を務めた池上君、副会長だった由布君・吉開さんが黄泉の



三井倶楽部（外観）

国へ旅立ち解散となったので、「関東高四会」だけが残ったのでした。八十路の峠を越えて下り坂を歩く私たちですが、私たちは「高四会」を「高志会」（今高高い志を持つとの思いで）と会の名前を変えて同期の集いを続けていくことにしました。この会には遠く柳川や福岡そして関西からも仲間たちが駆け付けてくれて三十五名の盛会となりました。仲良く明るく楽しく励まし合い助け合ってなるべく元気に生きていきたいと思っております。

同期会とは不思議なもので、長い八十年を超える人生の中でわずか三年間共に机を並べ、共に学び、共に運動場を駆け回り、共に語り、共に遊んだというだけでこれほどの強い絆が生まれるのです。



集合写真（H27）

ね。会うやいなや忽ち「オー元気にしとったか」「どげんしとった」「いっちゃん変わらんね」とか、手を取り合って近況報告や病院通いやら体のあちこちの不具合などの話になったりしているかと思えば昔の思い出話になったりしている。しかし和気藹藹の交歓は実に楽しく、同期会とは良いものだと思つづく思います。

二次会は又「九工大鳳龍クラブ」でした。「また来年も」と言いながら別れを惜しましました。

平成二十八年は十一月十五日（火）に、上野公園にある中華料理店「旦妃楼飯店」で開催いたしました。場所は西郷さんの銅像を正面に見る好立地で、創作中華料理を謳う気鋭の店でした。

今回は遠く九州から三名の友の参加を得て、都合二十三名の集いとなりました。

会長の渡邊喜亮君の開会挨拶、福岡の柘永君の乾杯の音頭で開宴となりました。それに続き、これまた福岡から駆けつけてくれた島田君から、福岡や柳川の恩師や友人たちの近況についての報告がありました。しばらくお互いの再会を喜ぶのでの歓談が続きましたが、その後一人一人の近況を語ってもらいました。八十路の苦労話、生きがいとして頑張っていること、また懐旧談など、皆身につまされる話ばかりでした。友人たちの消息の中で転居をする友の多いことも、高齢化ゆえかと考えさせられたことでした。八十路は緩やかな下り坂だけではなく、きつい上りや下りがあるとしみじみ思った

ことでした。

予定した三時間余はあつという間に終ち、別れの時となりました。最後に校歌「星座よ輝け……」、準校歌「白雲なびく……」を、そして最後に「故郷」を皆で合唱して閉会となりました。今回は二次会なしで来年の再会を期してお別れとなりました。

同期の集いとは良いもので来年の盛会を期待しております。



集合写真（H28）

高6回(昭和30年卒)だより

高6 石橋 修

7月23日に行われた伝習館東京同窓会では、私たち高6回の出席者は7名でした。久しぶりに、菊次(山浦) 伸子さん、井手(吉開) 由紀子さんが参加し、彩りを添えてくれました。今回も岡田哲也君が九州・久留米から出席し、司会者から「皆さんに大人気の抽選会の品を寄贈して下さい」岡田さん、一言ご挨拶をお願い致します」と壇上に招かれ、「高6回の岡田です。12年前からギリシャ産のオリブオイルとワインの輸入販売をしていますので、今回も少々お持ちしました。最高の品を最低のお値段でというのがモットーです」と挨拶したあと、その場で抽選を行い、当選された方々に持参の品を手渡し、大変喜ばれました。

同期の皆さんの出席が減少してきているのは寂しいことです。しかし、伝習館東京同窓会への賛助金の協力金額は、常に全学年のトップスリーに入っており、母校伝習館への熱い思いが伝わってきます。高6回の同期の皆さんは、シャイな方が多く、賛助金は出すが、顔と口を出すのは遠慮しているのでしょうか。

さて紙面をお借りして、三稜会の皆さんに報告と連絡です。昨年5月28日、柳川・御花で傘寿を記念して同期会が開催されました。東京からは、菊次(山浦) 伸子、池田勝嗣、石橋修、川口鍵寿郎、



戸上軍治の5名が参加して郷里の諸兄弟と親交を深めてきました。懐かしい恩師・秋原孝先生が出席され、同期の出席者は奇しくも傘寿に因んだ80名でした。会の終わりに、柳川・世話人代表から、全国規模の同期会は今回をもって最後になりますとの話がありました。東京を中心に開催している三稜会は、幹事全員の話し合いで、これからも2年に1回の開催は続けようということになりました。高齢化した同窓会の絶滅危惧種化が唱えられている昨今、三稜会は貴重な存在になってきました。三稜会には出席者がある限り続きます。今年が開催年になりますので、気候の良い4月中旬頃に開催しようと、幹事一同で準備を進めています。3月初旬には案内状をお届けしますので、

多数の皆さんの出席をお待ちしています。
写真は前列、左より井手(吉開) 由紀子、菊次(山浦) 伸子、川口鍵寿郎、岡田哲也。
後列、左より池田勝嗣、戸上軍治、石橋修(敬称略)

高12回生同期会

「くっぞん会」

高12 野上一治

10月30日(日)、今年もくっぞん会を開きました。1981年以来37年、概ね



毎年開いてきており、今回で33回を数えました。関東在住の仲間が中心の同期会ですが、毎回、福岡をはじめ、遠隔の地からの参加も歓迎しており、今回は全参加者33名のうち、福岡から4名、大阪から1名、北海道から1名の参加を得ました。

33回目の会で、33名参加。我々後期高齢者入りしようという年齢に達しつつありますが、実に「燦燦」と明るく、楽しく、笑いっぱい集いました。

今回も、ここ数年ずっと会場にしてきた赤坂山王健保会館(木都里亭)で開き、近所のカラオケ館に移ったの2次会には、大半の28名が参加しました。「愛燦燦」ほか、皆それぞれに歌詞に思い入れを感じながら聴き入ったり、一緒に歌った、あつという間の2時間でした。

大がかりな同期会を毎年開くのは、そろそろ区切り時かなと呟きつつも、カラオケで大いに盛り上がり、1年後にはまた元気で会いましょうと、お互いの健康を祈って散会しました。



高14東京同期会

高14 中ノ森重義

この年は年男・年女だった高校第14回生（昭和38年卒業）の東京同期会を11月18日、都心のホテルで開催した。東京同期会とはいつても、福岡、奈良、京都、名古屋からも駆け付け、総勢24名。頭髪は薄く、白くはなっているが、顔色はまだまだ精気があふれていた。「どげんしよったと」「まあ、なんとか元気よ」……柳川弁と東京弁が入り交じった会話ははずんだ。

以前は数年毎の開催だったが、60代後半から亡くなる同級生が目につき始め、



数年置きだとしてばらく顔を合わせないままでお別れになるため、数年前から毎年開催に切り替えた。今回は昨年顔を出した女性が亡くなっており、会の始めに黙とうした。

女性14名、男性10名。女性が多かったのは、この年になると女性がパワーアップしてくるといふ社会通念を裏付けているようだった。健康状態や級友、孫の話などに花が咲き、あつという間に時間は流れた。2次会は銀座のバーに移り、さらに盛り上がった。

同期会の良い点の一つに、それぞれが歩いてきた人生を聞くことにあると思う。順風満帆に見えても、苦しかったこと、泣きたかったこと……など大なり小なりの波を乗り切つて今があることを実感する。「私ももうちょっと頑張ろう」という思いが明日を生きる糧になる。

来年も11月に開催予定です。多くの方の参加をお願いいたします。

『気持ちだけは若い、良かジイちゃん・バアちゃんIN広島』

高18 久留間義伸

♪春高樓の花の宴、めぐる盃 影さして
♪桜の花は、前日の強い雨にも負けず、散らずに健気に必死に咲いてくれた平成28年4月8日……折しもG7外相会議の二日前で、日本各地から集結していた他県県警や機動隊の皆さん達、更には空からヘリコプターにも出迎えて貰

い、その上天気にも恵まれた広島で高校第18回卒の同期会が開かれました。

広島在住は男子3名、女子4名（内、今回1名欠席）の7名で、日頃は不定期ではありますが、食事とお酒の集いを年に数回楽しんでおります。

ところが今回は、関東、名古屋そして柳川、大川、福岡からと総勢18名もの参加。

中には、ありがたいことに遠くから日帰りでの参加をしてくれた仲間もいました。広島と言う地名も然ることながら、広島在住連の良か人柄の賜物だったので、勝手に自負(?)していたところではございます。

初日の午後は広島市内観光で、世界遺産「ドーム・平和記念公園」散策グループと旧藩主別邸「縮景園」等を巡るグループとに分かれ、「原爆資料館」で合流し、その後、宴会会場直行組と夕方に居酒屋で合流。

ここでは、夕方6時からの150分の予約時間は勿論、追加の30分の延長もあつと言う間で……。それにしても、皆な食事、楽しんでくれたのかな？ 広島カキの鍋料理に山口産の魚、少なくとも女性軍は美味しかったと料理に舌鼓を打つことも然ることながら、話の盛り上がり一番だったかも知れません。ここで全員そろってパチリと集合記念写真。

その後コーヒーブレイクを挟んでホテルチェックイン組とカラオケグループに

分散……。カラオケグループは女性も含めて歌って、しゃべって、最後は応援団風のエールで母校を称えて終宴。時計の針は、なッ何と午前0時……：おいおいホンマ皆なアラ70か!? 後で耳にした話ですと、チェックイン組もまた夜遊びに興じた模様とか。

二日目も好天に恵まれ、平和記念公園の乗り場から中速遊覧船で海路にて、これまた世界遺産の「安芸の宮島」へ。朝8時過ぎの集合時間に皆な集まるの心配でしたが、予定通りに全員集合、そして出港、風もなく川岸の残り桜を見ながら心地良い穏やかな瀬戸の海風を受けながら無事に宮島港に到着。私も久しぶりの宮島……話には聞いていましたが、観光客はあつちを見てもこつちを見ても外人さん達で一杯！

一同は、帰りの混雑を考え、先ずは山の上、それから神社を参詣する、私策定のスケジュールに沿い、秋には紅葉の県内屈指の名所となる「紅葉谷」の目にも爽やかな青葉に目を奪われながら、一路ロープウェイ駅を目指して坂道を登ります。8人乗りの小型ロープウェイに乗車、途中で30人乗りの大型に乗り換え、下界に広がる宮島の原始林を眺ながら「弥山」の「獅子岩展望台」へ。

若干、春霞に浮かぶものの、一巻の絵巻「瀬戸の海、島々」の眺望を堪能。ここで全員パチリとまた記念写真（どんな顔で写っているのかなあ……）に納まり下山。

途中、ほぼ貸切状態になったロープウ

エイの中では、これまた話の花が咲きまくり笑いの渦。

まあ、何と物知り、芸達者連と言うか口達者連中と言うか……ダジャレも含めて脱帽！

そんな中、何やら英語の話し声が聞こえる……誰だ？ あ、海外勤務の経験があるかと昨晩聞いた某君が、ブラジルから来たという若いカップルと会話しているではないか！

そうだ、自分の経験からしても、外人観光客が多くなった平和公園、宮島の光景を目の当たりにして、道案内など困った人のお役に立てればと、よし！（と気持ちだけは若い）私も英会話を学ぼう！とそのとき改めて思い直し、帰ってから早速、昔、友達から貰った「スピードラーニング」のCDを車に積み込みました。

度胸を据えながら、少しずつでも英会

話を楽しめればと思っています。

そんなこんなでアラ70才のジイちゃんバアちゃん達は、お互いに良い刺激を受けながら、いよいよ推古天皇時代（西暦600年前後）に創建、平清盛によって造営された「厳島神社」へ。ほぼ満潮に近く、正に海に浮かぶ社殿「こんな光景に巡り会える機会も少ないのですが、反面、残念ながら干潮時に干潟になった海の中を歩いて行けることで人気の大鳥居参拝、散策は出来ませんでした。

「因みに、宮島（合併後、廿日市市）とフランス、モン・サン・ミッシェルは、海に浮かぶ世界遺産「信仰の聖地」などの大きな共通点もあって、平成21年に『観光友好都市提携』を結んでおります。今、宮島の桜は満開で皆様方をお迎えしておりますが、これから桜前線は日本列島を北上し、北海道では5月一杯まで桜が楽しめます……。」

（なんてことをボランティア・ガイドとして英語でできたらカッコええだろうな↑目標）

さて、平和公園にも勝る観光客で溢れる神殿でしたが、人ごみに揉まれ、また神社で結婚式を挙げる新郎新婦に昔の自分（達）を重ねながらも（？）、全員神妙に神殿に向かっての神頼み（髪の毛が、これ以上抜けませんように……シワが、これ以上増えませんが……）。どうかは分かりませんが……。私は勿論《健康》を祈願しました。

朝が早かったのに加え、飲み疲れが同時に襲って来たのか、桜並木と名物の「もみじ饅頭」のお店等が立ち並ぶお土産通りを足早に通り抜け（ちよつとだけ買ひ物）、いざ昼食会場へ。

ここでは、宮島名物の「アナゴ飯と牡蠣フライ」定食。これは特に評判が宜しく、異口同音に故郷の「ウナギのせいろ蒸し」の味と重なって美味しいとの声々……。

（実は、観光客で満杯のところを、広島在住の仲間がコネで何とか事前に予約を取ってくれました。ありがたいことです。）皆さんに少しでもおもてなしができて良かった（ホッ）。

落ち着いたホテル内、ここでビールで乾杯、料理に舌鼓を打ちながら、おまけに、これまた美味しい広島酒を嗜む人も！（実は私も……。会計さん御免下さい、アリガト。）

昼の宴もたけなわのところ、帰路に向かう方向違いと時間のこともあり、ここで中締め。

本当に楽しい二日間でした。50年振りに会った人が多い中で、昔の面影を残して居た人、全く想いが違った人、さらには今回初めて話した人など、想い・経緯はそれぞれでしたが、改めて仲間って良いなあと思った、知った次第です。

そうそう、聞くところによると、東京組の男性の中の一人が当時好意を寄せていた女性が、広島組の中にいたらしいとのこと。彼の眼にはどう映ったのでしょうか、いつまで経ってもロマンの花は咲き続けています。皆な気持ちだけは若い

ねえ。

最後に、頼り甲斐の無い幹事でしたが、広島在住の仲間は勿論、こんな地方の小都市広島まで遠方から遙々、わざわざ足を運んで来てくれた上に、色んな場面で支えてくれ、喜んでもらい、そして楽しませてくれた素晴らしい仲間達に心から感謝!!（思わず感涙……）

本当にありがとうございました。

平成28年4月28日

（記）広島幹事…久留間義伸

（参加者）石川 滋、井口達己、津留（岩永）知子、植木光治、大津博、西村（北村）美年子、御厨（木原）博子、岩井（古賀）恭子、堤博昭【幹事】、堤（徳永）澄子、中嶋文法、成清一廣、福山博彰、満生英二、森田啓悟、森山信治、森山（小山）三喜子、久留間義伸【幹事】の合計18名。



「だんまや」での集合写真



「21会」
同期会イン柳川

高21 北島正常

もうし、もうし柳河じゃ、柳河じゃ
銅（かね）の鳥居を見やしゃんせ
欄干橋を見やしゃんせ 見やしゃんせ
馭者はラッパの音をやめて赤い夕日に
手をかざす

アザミのはえたその家は古い昔のノス
カイヤ……

グリーククラブで歌った北原白秋・柳河
風俗詩「柳河」にでてくる三柱神社への
入り口、欄干橋、かねの鳥居のそばにあ
る「北斗星」で、8月13日、高21回生同
期会「21会」が開催されました。集合写
真はその欄干橋のたもとで撮影。参加者
は54名。7月に行われた東京同窓会総会
からも6名が帰郷しての参加となりました。
白髪、後退組も増え、思わず「あん
た、だりかん？」と互いに名札を見合う
光景が……。

今回は大川・大木地区が当番幹事とい
うことで志岐博通君（志岐蒲鉾社長）を
中心にお骨折りをいただいて実現。恩師に
は田中正志先生が招かれ、久々のごあい
さつ。先生も80を越えて白髪、あのころ
は若い先生だったのと思えど、お隣に
「もう卒後半世紀近く経つとるもんね」
といわれナットクです。田中先生は大学
の先生を75歳まで務められ、最近、動脈
瘤の手術をされたが、360万かかる
ところ後期高齢者の高額医療制度により



4万円の負担で済んだとお元気な様子で
語られた。予備軍としては参考になりま
した。同期生には金子市長夫人、市町議
会議員、起業家と活躍組もおりますが、
現役を退き、セカンドライフを語る人が
多いのもこの年ならではの。激動の時代に
高校生活を送った世代ですが、今や角が
とれ、わだかまりも消え、自然と融和
し、最後には「白雲なびく」を力強く唱
つて散会となりました。このあと、歓楽
街に繰り出し、ほとんどが二次会、三次
会と続き、夜更けまで歌いまくったツワ
モノもいたようです。（北島・記）

福岡県大川市

無病息災と家内安全を願う
風浪宮大祭の前夜祭「裸ん行」

2月8日、風浪宮大祭の前夜祭と
して恒例の「裸ん行」が行われました。
今回の裸ん行には、昨年撮影された
大川市地域発信型映画「想い出の中
で」の関係者が、プライベートで多数参
加していました。主演を務めた紺野千
春さんをはじめ、吉本興業所属でおお
かわセールス隊員の「ぶんぶん丸」など
が、堂に入った白装束・締め込み姿で
列なっていました。
そのほか、NHKや東京MXなど、
テレビ局の取材も多かった本年の裸ん
行。由緒ある行事は、たくさんの人を
つないでいきます。

Flash Back
～最近の出来事から～



開始直前、松明に点火



この日の気温は約9度。若衆たちは寒風にも負けず「わっしょい」と声を上げ、雄社に走っていました

ふるさと瓦版



坂井聖人選手がゴールした瞬間、歓喜の渦に包まれたパブリックビューイング会場（次ページ参照）

柳川に新たなヒーロー誕生

坂井聖人 Sakai Masato

リオ五輪の競泳男子200mバタフライに出場した、市出身の坂井聖人選手（早稲田大3年）が8月10日、銀メダルを獲得しました。

前日の準決勝から水の郷ではPV（パブリックビューイング）が行われ、当日は、母校柳川高校の生徒や坂井選手が通った柳川スイミングクラブの子どもたちなど約150人が応援。坂井選手の同級生らが応援隊になり、会場を盛り上げました。

決勝では、前半を6位で折り返した坂井選手が、後半50mで猛然と追い上げ、1位とわずか1.00分の4秒差の自己最高記録1分53秒40を出し、2位でゴールしました。その瞬間、跳び上がった喜び、手を取り合ったり涙したりする人々、PV会場は歓喜の渦に包まれた。坂井選手は「言葉にならないくらいうれしい」と喜びを語りました。また、リオでの表彰式に合わせて花火も打ち上げられ、坂井選手の活躍を祝福しました。市出身者がオリンピックでメダルを獲得したのは、昭和51年のモントリオール五輪で、岡田勇さんが柔道で金メダルを獲得して以来40年ぶり。市は、坂井選手の活躍に、大関努奨菊岡に次ぐ、市民栄誉賞の授与を計画。また、母校柳川高校と合同での「銀メダル報告会」や水上パレードを行う予定です。

問い合わせは、市生涯学習課スポーツ推進係（☎77・8837）まで。

リオ五輪競泳男子200mバタフライ

坂井聖人選手 銀メダル獲得 おめでとう！



平成26年9月、柳川スイミングクラブで撮影

No.275
9/1
September
2016

広報やながわ
平成28年9月1日号

「ひととき」で柳川と立花宗茂を特集！

東海道／山陽新幹線の車内誌「ひととき」（12月号、ウエッジ社刊、主要書店でも500円で発売）に「水郷・柳川紀行 立花宗茂という武将がいた」が20ページにわたり特集されています。特集は「春日太一さん 西国無双の武将を追う」「もうちょっと水郷・柳川紀行」で構成。柳川のガイド書にもなっています。

バックナンバー取り寄せ・問い合わせフリーダイヤル0120・34・3746

ご当地カレーの味競う

都内でイベント 浜松市が予選出場

全国各地の特産物を集めた東京・浅草の商業施設「まるごと」で1日、ご当地カレーの味を競う「ふるさとカレーグランプリ」が始まった。施設内のアンテナショップにブースを設けている全国11市町が参戦。初日は浜松市など4市町が予選に臨んだ。

グランプリは特産品のPRを目的に同施設が初めて企画した。各市町が自慢の食材を生かしたオリジナルのカレーを出品し、一般投票で評価を競う。

浜松市は「アサリたっぷり井伊の赤備えカレー」を提案。地酒で酒蒸しにした浜名湖産アサリとトマトを使い、深みのあるルーに

全国の各地の特産物を集めた東京・浅草の商業施設「まるごと」で1日、ご当地カレーの味を競う「ふるさとカレーグランプリ」が始まった。施設内のアンテナショップにブースを設けている全国11市町が参戦。初日は浜松市など4市町が予選に臨んだ。

グランプリは特産品のPRを目的に同施設が初めて企画した。各市町が自慢の食材を生かしたオリジナルのカレーを出品し、一般投票で評価を競う。

浜松市は「アサリたっぷり井伊の赤備えカレー」を提案。地酒で酒蒸しにした浜名湖産アサリとトマトを使い、深みのあるルーに

予選の大河ドラマ「おんな城主 直虎」にちなみ、武具を朱色に塗った井伊家の赤備えをイメージした赤色のカレーが1位。浜松はカレーに仕上げた。市による決勝（6、7日）には進めなかった。

2017年放送「わって」と乗場者にP Rした。予選会は3日まで。初日は福岡県柳川市の「柳川黄金博多和牛カレー」が1位。浜松は2位で、各日の1位に



「ご当地カレーを味わう来場者ら11日午前、東京・浅草の「まるごと」にて」

8月2日 静岡新聞

賛助金のお振込方法

① 同封の郵便振替用紙による

② 銀行振込による

銀行名 三菱東京UFJ銀行 銀行コード(0005) 支店名 駒込支店 店コード(061)
普通預金
口座番号 1073673
口座名 伝習館東京同窓会

いずれのお振込の場合にも必ず回生又は卒業年度をお書き下さい。



伝習館東京同窓会事務局

〒170・0003
東京都豊島区駒込3・3・19
TEL 03・3915・0865
FAX 03・3915・0220

広告募集

チラシ広告

対象 東京同窓会会員向けに製品・商品・営業内容などをPR、販売したい方。
○チラシ三千部を作成し(フォーム自由)事務局宛送付下さい。
会員への会報送付時に同封郵送します。
○広告代金 一件につき弐万円を賛助金として頂きます。
会員の皆様からも、希望業者の方をどしどしご紹介下さい。

募集中!

1. 表紙絵・表紙用写真
2. 原稿—伝習館OBならダッデンヨカバンモ
○テーマ自由(同窓会報にふさわしいもの)
小説・随筆・詩・短歌・俳句・川柳・絵画・写真・書など
○字数制限なし・原則※常識的範囲で(原稿用紙使用、またはワード原稿をメールで送付)
写真・絵・カット添付可
○表題・投稿者氏名・卒業年度を書いて下さい。
※原則10月20日〆切

—原稿送付先—

〒153・0051
目黒区上目黒3・21・19
伝習館東京同窓会 北島 正常 行
E・mail・anc54684@nifty.com
FAX 03・3713・6775
携帯 090・5532・0323

編集後記

○今回も多彩な原稿が寄せられ、ボリューム感のある会報となりました。東京同窓会会報の元旦配達は多くの会員に歓迎されたので、今回もそれを目標に集稿を早めました。原稿急がせた方もおりますが、松の内配達に免じて、どうぞご容赦を。
○会報制作を早めたため、賛助金の受付締め切りも11月末と1カ月早まりました。次回の賛助金の受付は平成28年12月/平成29年11月末までとなります。
○初場所で大関・琴奨菊が初優勝を果たし、3月に祐未夫人と舟で祝賀パレード。夏はリオ五輪で坂井聖人(まさと)選手が200バタフライで怪物フェルプスに100分の4秒差に迫る大健闘をみせ、銀メダルを獲得。水泳では開田幸一選手(高8回、ローマ五輪競泳リレー・銅)以来、56年ぶりのメダリスト誕生と、柳川は2人の快挙に大いに盛り上がった年でした。(北島)

○編集委員は次の通りです。

北島正常(編集長 高21)
内山秀生(高10)
永倉素子(高10)
高巢和登(高20)
西原正道(高21)
成清良孝(顧問 中56)
江崎正直(顧問 高2)
会長 白谷政則(高21)
副会長 原田(立花)万紗子(高13)
副会長 桃島正司(高16)
発行責任者 白谷政則

〒230・0073
横浜市鶴見区獅子ヶ谷1・9・1

伝習館東京同窓会学年幹事名簿 平成28年12月現在

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
中学第48回	宮本弘道	同上	十時理展	第51回	大曲由起子
中学第53回	古賀和典	同上	満生英二	同上	西田大樹
中学第54回	原 朗	第19回	芹川季代子(立花)	同上	本村泰輝
同上	山崎清勝	同上	田中茂利	同上	山田美紀
同上	木下憲男	第20回(常任幹事)	高巢和登	第55回	武下優子
中学第55回	江崎和夫	第21回(常任幹事)	西原正道	同上	松尾春菜
同上	小泉祐一郎	同上(会長)	白谷政則	同上	龍 幸弘
中学第56回	鬼丸敏男	同上(編集長)	北島正常	第56回	木村陽佳
同上	成清良孝	第22回	北原富美男	第58回	市川広大
高女45	石橋佳香	第23回(常任幹事)	樋口貴美子(田上)	第59回	川口 惇
高校第1回	増尾義勝	同上(常任幹事)	高田健二	同上	古賀康之
第2回	石崎知見	第24回	酒見和平	同上	深町日出海
同上(名誉会長)	江崎正直	第25回	稗田克彦	第61回	江崎崇浩
同上	小野善睦	第26回	藤吉旭水	同上	植木 智
第3回	酒井清行	第27回	高橋圭介	同上	国武美彩衣
第4回	荒井健之輔	同上	松藤峯成	同上	亀崎泰広
同上	渡邊喜亮	第28回(常任幹事)	吉開孝人	同上	島添賢一
第5回	岸 栄洋	第29回	斉藤慎吾	同上	関 翔子
第6回	石橋 修	第30回	橋爪政男	同上	北島郁巳
同上	戸上軍治	同上	小野弘美(中山)	同上	田中祥子
第7回	龍 弘道	第31回	池末利活	同上	高口裕貴
同上	永江嵩子(湖上)	同上	永田日出樹	第62回	亀崎元貴
第9回	原田光紀	第32回(常任幹事)	大山 恵	同上	古賀康孝
第10回(編集委員)	内山秀生	同上	森永 明	同上	中村知永
同上(編集委員)	永倉素子(跡部)	第35回	田中铁郎	同上	本園雄也
第11回	永尾弘行	同上	橋本知彦	第63回	野中 優
第12回	小野アケミ(岸川)	同上	池上英次	同上	杉 なつみ
第13回	田中利道	第36回	松藤 亘	第64回	生田正史
同上	尾田義昭	第37回	江口一元	第65回	安永 新
同上(副会長)	原田万紗子(立花)	同上	石橋泰光	第66回	梅崎香菜恵
第14回	石橋俊一	同上	志牟田美佐	第68回	樋口由香里
同上	高木節子(堤)	同上	桑山 薫		
第16回(副会長)	椛島正司	第38回(常任幹事)	金子千恵美		
同上	水澤昭子(田中)	第39回(常任幹事)	高橋 徹		
第17回	北島文之	第40回	田中貴士		
同上	福山雅文	第42回	長野健一		
同上	山本祥子	第45回	浦 裕美		
同上	北野すえ子(潮井川)	第48回	山内朋彦		
第18回	吉田シヅカ	第50回	河内慎治		

幹事未選出の学年は至急選出して事務局までご連絡下さい。

伝習館東京同窓会会則

平成14年7月21日

- 一 (名称) 本会は伝習館東京同窓会と言います。
- 二 (目的) 本会は会員相互の親睦と融和を図ると共に母校の発展に資することを目的とします。
- 三 (事務局) 本会の事務局は次の場所に置きます。
〒170-0003 東京都豊島区駒込三丁目3番9号
千鳥屋 内 伝習館東京同窓会 事務局
- 四 (事業) 本会はその目的を達するため以下の事業を行います。
1 総会の開催
2 同窓会誌の発行
3 母校事業の後援等
4 その他本会の目的達成に適切な事業
- 五 (会員) 本会は福岡県立伝習館高等学校、中学伝習館、柳河高等女学校、高等学校伝習館(含む併置中学校)、柳河女子高等学校(含む併置中学校)卒業生並びに一時在籍した者を以て会員とします。
- 六 (会計) 本会の会計は会員の会費、寄附金品等を以て運営し、毎年1回、幹事会においてその収支を監査します。
- 七 (役員) 本会には以下の役員を置きます。
1 会長 1名
2 副会長 2名以内
3 事務局長 1名
4 幹事 若干名
5 会計 2名
- 八 (役員)の選任等 会長は幹事会の推薦により総会で決定し、副会長並びに事務局長及び会計は幹事会で、幹事は各卒業年度の会員の互選により2名以内を各選任します。
- 九 (役員)の任期 役員は任期は4年として、その再任を妨げません。
- 十 (総会) 総会は2年に1回開催します。会長は総会において会計を報告します。
- 十一 (付則) 本会則は総会の決議により改定出来るものとし、本会に必要な細則は幹事会で別途定めます。



琴奨菊、優勝・結婚祝賀 水上パレード

初場所、栃東以来10年ぶりの日本人力士優勝を果たした大関・琴奨菊。初場所の後は祐未さんと挙式。

この初優勝と結婚を祝う水上パレードが3月5日、故郷の柳川で行われた。

二人は後援者とともに乗船、川上りコースを進み、詰めかけた大勢の人たちの祝福に笑顔で応えた。

高16・水澤昭子さん撮影

144年ぶりに 柳河城天守閣を再現?!

3月1日から40日間、柳城中学と柳川高校の間にある柳川城址に柳河城天守閣が再現された。

これは天守閣再建を目指すNPO法人「柳河城を再建する会」に、柳川商工会議所、柳川活性化協議会が支援し、高さ、幅ともに15mのパネルによる模擬城を設営した。

柳河城は伝習館高校美術部の生徒がデザインし、パネル105枚に描いた城絵図を組み合わせたもの。夜間もライトアップされ、観覧者を魅了した。

高3・西山彰先生撮影



墨象作品「心の絆」 木村松峯(峯子) 高6 日本美術界優秀の美格蘭プリ書道部門 大賞作品

人は見えない絆で結ばれています。親子関係や恋人関係など何も言葉を発せずともわかりあえるものです。

人同士はもちろんのこと、すべての生活は、なにかしらの絆でつながっていると思います。

遠くはなれた友人とも、久しぶりに会うとまるで昨日逢ったかのように感動を分かち合えます。

この神秘的な、心の絆をテーマに墨象で表わしてみました。

北原白秋「竹林幽居」より

木村松峯・書

〔積分〕

非(ひ)とりかくれ多(た)

た可無(かむ)ら耳(に)

茗荷(みよが)もしろく

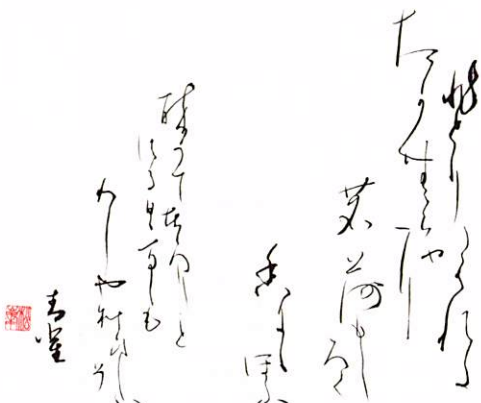
香尔(かに)、ほふ

ようて本(ほ)ろりと

須(す)るひ亭毛(ても)

わしや斜(さ)びしい曾(ぞ)

青雀(あおすずめ)





「富士の笠雲」

冬の早朝に外に出たら
富士と笠雲による息を呑むような光景が。
夢中でシャッターを切りました。

高 18 吉田シヅカさん撮影
静岡県長泉町在住



伝習館東京同窓会事務局

〒170-0003 東京都豊島区駒込 3丁目 3-19 千鳥屋方
TEL 03(3915)0865 FAX 03(3915)0220